

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年6月23日
【事業年度】	第45期（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）
【会社名】	株式会社アルプス物流
【英訳名】	ALPS LOGISTICS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山崎 孝一
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市港北区新羽町1756番地
【電話番号】	045(531)4133（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 高橋 許高
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市港北区新羽町1756番地
【電話番号】	045(531)4133（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 高橋 許高
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第41期 平成17年3月	第42期 平成18年3月	第43期 平成19年3月	第44期 平成20年3月	第45期 平成21年3月
売上高 (百万円)	48,584	55,497	60,412	63,437	60,776
経常利益 (百万円)	4,746	5,419	5,563	5,639	3,344
当期純利益 (百万円)	2,576	2,847	2,907	2,980	1,457
純資産額 (百万円)	19,646	22,700	27,951	30,586	30,364
総資産額 (百万円)	40,575	42,044	48,267	49,804	46,479
1株当たり純資産額 (円)	1,107.79	1,281.13	1,430.94	1,562.49	1,551.21
1株当たり当期純利益金額 (円)	149.05	159.20	164.30	168.45	82.34
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.4	54.0	52.5	55.5	59.1
自己資本利益率 (%)	14.5	13.4	12.1	11.3	5.3
株価収益率 (倍)	17.4	16.1	12.5	6.1	9.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,971	4,530	4,755	5,043	3,490
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,288	2,107	7,203	2,763	1,671
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	920	1,652	1,513	1,787	1,941
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	7,648	8,766	7,926	8,403	7,595
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (名)	2,716 (3,211)	3,033 (3,143)	3,509 (3,193)	3,794 (3,290)	4,130 (3,339)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

4 第43期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第41期 平成17年3月	第42期 平成18年3月	第43期 平成19年3月	第44期 平成20年3月	第45期 平成21年3月
売上高 (百万円)	27,744	30,829	32,060	31,806	28,221
経常利益 (百万円)	3,073	3,412	3,593	3,657	1,648
当期純利益 (百万円)	1,874	2,011	2,186	2,220	975
資本金 (百万円)	2,349	2,349	2,349	2,349	2,349
発行済株式総数 (株)	17,737,200	17,737,200	17,737,200	17,737,200	17,737,200
純資産額 (百万円)	16,365	18,063	19,838	21,421	21,705
総資産額 (百万円)	27,285	26,742	31,694	31,580	29,077
1株当たり純資産額 (円)	922.86	1,019.58	1,121.07	1,210.53	1,226.59
1株当たり配当額 (円)	17.50	22.50	25.00	30.00	35.00
(内、1株当たり 中間配当額) (円)	(7.50)	(10.00)	(12.50)	(12.50)	(17.50)
1株当たり当期純利益金額 (円)	108.23	112.45	123.56	125.50	55.15
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.0	67.5	62.6	67.8	74.6
自己資本利益率 (%)	12.6	11.7	11.5	10.8	4.5
株価収益率 (倍)	24.0	22.8	16.6	8.2	13.5
配当性向 (%)	16.2	20.0	20.2	23.9	63.5
従業員数 (名)	698	686	703	720	734
(ほか、平均臨時雇用者数)	(574)	(564)	(574)	(592)	(660)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

2【沿革】

年月	概要
昭和39年 7月	神奈川県横浜市港北区に資本金200万円をもって、当社の前身である株式会社渡駒を設立、同時に横浜営業所を開設し、梱包資材取扱業務（現在の包装資材販売事業）及び貨物取扱業務を開始
昭和41年 1月	宮城県古川市に古川営業所を開設
昭和42年 4月	社名を渡駒運輸株式会社に変更
6月	アルプス電気株式会社から資本参加を受け、同時に本社を横浜市港北区内に移転
12月	一般小型貨物運送事業免許（現一般貨物自動車運送事業許可）を渡部駒喜氏より譲受
昭和44年 4月	埼玉県熊谷市に熊谷営業所を開設
5月	福島県相馬市に福島営業所を開設
11月	福島県いわき市にいわき営業所を開設
昭和45年 3月	社名をアルプス運輸株式会社に変更
昭和51年 3月	自動車運送取扱事業の登録（現貨物運送取扱事業の許可及び登録）を受け業務開始
昭和55年12月	岩手県玉山村に盛岡営業所を開設
昭和57年 2月	埼玉県羽生市に羽生配送センターを建設し、熊谷営業所を移転拡充し羽生営業所と改称
4月	大阪府吹田市に大阪営業所を開設、静岡県浜松市に浜松営業所を開設
昭和59年 3月	横浜市港北区に本社社屋と横浜営業所自動倉庫を建設
昭和60年 3月	新潟県小出町に新潟営業所を開設
6月	大阪府茨木市に大阪配送センターを建設し、大阪営業所を移転拡充、同時にいわき営業所を小名浜営業所と改称
9月	宮城県古川市に古川配送センターを建設し、古川営業所を移転拡充
昭和61年 8月	長野県南箕輪村に長野営業所を開設
9月	大阪営業所において倉庫業の許可を受け業務開始
11月	愛知県名古屋市内に名古屋営業所を開設
昭和62年 4月	社名を株式会社アルプス物流に変更。また、アルプス・トラベル・サービス株式会社から輸出入業務部門を譲受し、輸出入貨物取扱業務を開始
昭和63年 4月	アルプス電気株式会社より商品管理部を譲受
8月	福島県安達郡本宮町に郡山営業所を開設
9月	盛岡配送センターを建設し、盛岡営業所を拡充
10月	東京都大田区に東京港センターを開設 福島県新地町に相馬配送センターを建設し、相馬営業所を移転拡充
平成 2年11月	愛知県春日井市に名古屋配送センターを建設
平成 4年12月	長野県南箕輪村に長野配送センターを建設し、長野営業所を移転拡充
平成 6年 4月	香港に子会社アルプス物流香港有限公司を設立、また、成形材料販売事業を開始
7月	福島県安達郡本宮町に郡山配送センターを建設し、郡山営業所を移転拡充
平成 7年 3月	マレーシアに内外日東株式会社と合併にてアルプス・ナイガイ・ロジスティクス（マレーシア）SDN. BHD.を設立（現・連結子会社）
7月	中国天津市に現地資本と合併にて天津泰達国際倉儲運輸有限公司（現天津泰達アルプス物流有限公司）を設立（現・連結子会社）
9月	東京証券取引所市場第二部に上場
平成 8年 6月	本社及び横浜営業所においてISO9002認証取得
9月	株式会社流通サービスの株式を取得、当社の関係会社とする（現・連結子会社）
平成 9年 3月	大阪営業所においてISO9002認証取得
6月	群馬県藤岡市に高崎営業所を開設
9月	シンガポールに子会社アルプス・ロジスティクス（S）PTE.LTD.を設立（現・連結子会社）
平成10年 2月	株式会社流通サービスの子会社3社が合併し、株式会社流通運輸となる
4月	名古屋営業所においてISO9002認証取得
平成11年 5月	中国上海市に天津泰達アルプス物流有限公司の支店（上海分公司）を開設
9月	中国上海市にアルプス物流（上海）有限公司を設立（現・連結子会社）
平成12年 1月	中国広東省に現地資本と合併にて広東アルプス物流有限公司を設立（現・連結子会社）
11月	静岡県袋井市に静岡配送センターを建設し、浜松営業所を移転拡充し静岡営業所と改称

年月	概要
平成13年 4月	千葉県佐倉市に成田営業所を開設
"	宮城県仙台市に仙台営業所を古川営業所から分離独立
11月	東京税関より通関業の免許取得
平成14年 1月	新潟県見附市に新潟営業所を移転拡充
3月	I A T A (国際航空運送協会)より、「航空貨物代理店ライセンス」を取得
4月	中国大連市に天津泰達アルプス物流有限公司の支店(大連分公司)を開設
6月	本社・横浜営業所・大阪営業所・東京港センターにおいて、ISO9001:2000年版認証取得
9月	千葉県山武郡芝山町に成田営業所を移転拡充
12月	アメリカにアルプス・ロジスティクス(USA)INC.を設立(現・連結子会社)
平成15年 2月	中国上海市に上海東軟時代物流軟件有限公司を設立
"	古川営業所・相馬営業所・小名浜営業所・新潟営業所・郡山営業所・資材販売部において、ISO9001:2000年版認証取得
5月	中国大連市に大連泰達アルプス物流有限公司を設立(現・連結子会社)
9月	羽生営業所・高崎営業所・長野営業所・静岡営業所・海上貨物営業部・航空貨物営業部において、ISO9001:2000年版認証取得
平成16年10月	当社がTDK物流株式会社と合併
12月	ISO14001:1996年版認証取得
平成17年 3月	千葉県山武郡芝山町に成田営業所の新倉庫が完成
4月	成田営業所の新倉庫稼働とともに営業を開始
5月	静岡県榛原郡相良町に相良営業所を開設、大井川営業所を移転改称
6月	秋田営業所・古川営業所・相馬営業所・小名浜営業所・新潟営業所・郡山営業所・羽生営業所・高崎営業所・松戸営業所・成田営業所・横浜営業所・長野営業所・名古屋営業所・大阪営業所・東京港センター・本社において、ISO14001:1996年版をISO14001:2000年版に移行し認証取得
8月	愛知県瀬戸市穴田町に瀬戸営業所を開設、尾張旭営業所を移転改称
9月	東大阪営業所においてISO14001:2000年版認証取得
"	メキシコにアルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V.を設立(現・連結子会社)
10月	秋田営業所・庄内営業所・松戸営業所・瀬戸営業所・相良営業所・東大阪営業所においてISO9001:2000年版認証取得
11月	瀬戸営業所においてISO14001:2000年版認証取得
"	中国上海市に上海アルプス物流国際貨運代理有限公司を設立(現・連結子会社)
平成18年 4月	天津泰達アルプス物流有限公司において、ISO9001:2000年版認証取得
6月	盛岡営業所・北上営業所・北上後藤野営業所・仙台営業所・富山営業所において、ISO9001:2000年版認証取得
8月	中国寧波市に上海アルプス物流国際貨運代理有限公司の支店(寧波分公司)を開設
12月	中国廈門市に上海アルプス物流国際貨運代理有限公司の支店(廈門分公司)を開設
平成19年 1月	福岡県福岡市に福岡営業所を開設
"	特定労働者派遣事業を開始
6月	福岡営業所においてISO9001:2000年版認証取得
7月	盛岡営業所・北上営業所・北上後藤野営業所・仙台営業所・庄内営業所・富山営業所・南羽鳥営業所において、ISO14001:2004年版認証取得
10月	アメリカにアルプス・ロジスティクス(USA)INC.の支店(マッカレン支店)を開設
12月	福岡営業所においてISO14001:2004年版認証取得
平成20年 8月	タイにアルプス・ロジスティクス(タイランド)CO.,LTD.を設立(現・連結子会社)
10月	デバイス販売事業を開始
11月	新潟県長岡市に新潟営業所を移転拡充
12月	天津泰達アルプス物流有限公司の支店(大連分公司)において、ISO14001:2004年版認証取得
平成21年 2月	上海アルプス物流国際貨運代理有限公司の支店(廈門分公司)において、ISO9001:2000年版認証取得

### 3【事業の内容】

(1) 当社の企業集団は、当社と関係会社（子会社12社）で構成され、国内外の顧客に対して運送・保管・フォワーディング等のサービスを一貫して提供する総合物流サービス事業及び成形材料・包装資材等の商品販売事業を行っております。

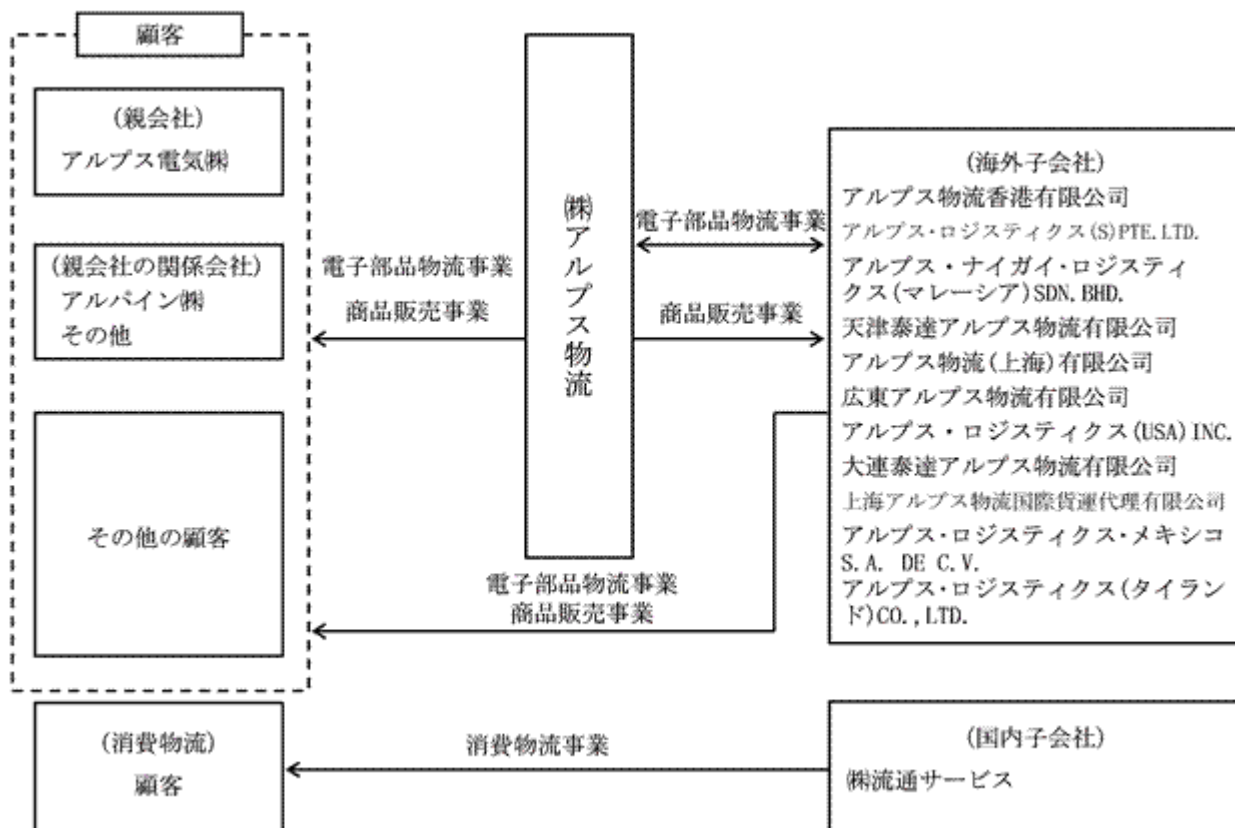
また、当社グループは、当社の親会社であるアルプス電気株式会社を中心としたアルプスグループに属しており、同グループの電子部品、音響製品の販売・製造に伴って生じる国内外の物流業務も受託しております。

当社グループの事業に関わる位置付け及び事業の種類別セグメントの関連は、次のとおりです。

なお、当社グループは当連結会計年度より事業の種類別セグメントの事業区分を下記のとおり変更しております。電子部品物流におきまして、国内外が一体化したグローバルな事業展開が進んでいること、また国内の連結子会社が行っている消費物流事業の事業規模が拡大したことを受け、当社グループの事業の実態をより適切に反映するため見直しを行ったものであります。

- [ 電子部品物流事業 ] .....当社及び海外子会社は、国内外の顧客に対する電子部品貨物の運送・保管及びフォワーディング等のサービスをグローバルに提供する総合物流サービスを行っております。
- [ 消費物流事業 ] .....国内子会社1社は、主に生協関連の一般消費者向け個配やその他国内消費物流に絡む貨物の運送・保管・流通加工等に関する物流サービスを行っております。
- [ 商品販売事業 ] .....当社及び海外子会社2社は、成形材料、包装資材及び電子デバイスの仕入及び販売事業を行っております。

(2) 事業の系統図は次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(親会社) アルプス電気株式会社 * 2	東京都大田区	百万円 23,623	電子機器及び 部品の製造・ 販売		48.9 (2.2)	当社グループが、製品・部品の 運送・保管・輸出入関連業務 等の受託、倉庫等の賃借及び商 品販売事業を行っております。 役員の兼任 3名
(連結子会社) 株式会社流通サービス * 1 * 4	埼玉県草加市	百万円 240	消費物流事業	70.6		国内消費物流事業を行ってお ります。 役員の兼任 2名
アルプス物流香港有限公司	香港 九龍	千HK\$ 7,000	電子部品物流 事業	100.0		当社と連携し、香港にて国際間 の総合物流サービスを行って おります。 役員の兼任 3名
アルプス・ロジスティクス (S) PTE. LTD.	シンガポール	千S\$ 1,000	電子部品物流 事業	100.0		当社と連携し、シンガポールに て国際間の総合物流サービス を行っております。 役員の兼任 1名
アルプス・ナイガイ・ロジス ティクス(マレーシア) SDN. BHD. * 3	マレーシア ネグリセンピラン	千M\$ 2,200	電子部品物流 事業	50.0		当社と連携し、マレーシアにて 国際間の総合物流サービスを 行っております。 役員の兼任 なし
天津泰達アルプス物流 有限公司 * 1 * 3	中国 天津市	千RMB 49,715	電子部品物流 事業	48.0		当社と連携し、中国天津、上海、 大連、無錫にて国際間の総合 物流サービスを行っております。 役員の兼任 2名
アルプス物流(上海) 有限公司 * 1	中国 上海市	千RMB 66,222	電子部品物流 事業 商品販売事業	100.0 (25.0)		当社と連携し、中国上海にて国 際間の総合物流サービス及び 商品販売事業を行っておりま す。 役員の兼任 3名
広東アルプス物流有限公司 * 3	中国 広東省 東莞市	千RMB 9,934	電子部品物流 事業	49.0 (49.0)		当社と連携し、中国広東にて国 際間の総合物流サービスを 行っております。 役員の兼任 2名
アルプス・ロジスティクス (USA) INC.	アメリカ カリフォルニア州	千US\$ 1,000	電子部品物流 事業	80.0		当社と連携し、米国にて国際間 の総合物流サービスを行って おります。 役員の兼任 2名
大連泰達アルプス物流 有限公司 * 1 * 3	中国 遼寧省 大連市	千RMB 19,864	電子部品物流 事業 商品販売事業	50.0		当社と連携し、中国大連にて国 際間の総合物流サービス及び 商品販売事業を行っておりま す。また、当社は借入金に保証 予約をしております。 役員の兼任 2名
上海アルプス物流国際貨運代 理有限公司	中国 上海市	千RMB 8,081	電子部品物流 事業	100.0 (100.0)		当社中国内の関係会社と連携 し、中国華東地区における営業 統括・拡販活動を行っており ます。 役員の兼任 3名
アルプス・ロジスティクス・ メキシコ S.A. DE C.V.	メキシコ レイノサ市	千MXN 5,366	電子部品物流 事業	100.0 (100.0)		当社米国の関係会社と連携し、 メキシコにて国際間の総合物 流サービスを行っております。 また、当社は倉庫賃貸借契約に 関して保証予約をしております。 役員の兼任 1名
アルプス・ロジスティクス (タイランド) CO., LTD. * 3	タイ バンコク	千THB 15,000	電子部品物流 事業	49.9		当社と連携し、タイにて国際間 の総合物流サービスを行って おります。 役員の兼任 1名

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。  
 2 「議決権の所有又は被所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。  
 3 \* 1 : 特定子会社であります。  
 4 \* 2 : 有価証券報告書の提出会社であります。  
 5 \* 3 : 持分は、100分の50以下であります。実質的に支配しているため子会社としております。  
 6 \* 4 : 株式会社流通サービスについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を越えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	21,705百万円
	(2) 経常利益	922 "
	(3) 当期純利益	426 "
	(4) 純資産額	4,744 "
	(5) 総資産額	12,478 "

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成21年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(名)
電子部品物流事業	1,844 (713)
消費物流事業	2,177 (2,604)
商品販売事業	22 (6)
全社(共通)	87 (16)
合計	4,130 (3,339)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
 2 従業員数欄の(外書)は臨時従業員の当連結会計年度の平均雇用人員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成21年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
734 (660)	38歳9ヶ月	12年2ヶ月	5,210,740

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3 従業員数欄の(外書)は臨時従業員の当事業年度の平均雇用人員であります。

### (3) 労働組合の状況

連結子会社のうち、株式会社流通サービスには運輸労連東京流通サービス労働組合(組合人数887人)及び東京西部一般労働組合流通サービス分会(組合人数不詳)がそれぞれ組織されており、運輸労連東京流通サービス労働組合は全日本運輸産業労働組合東京都連合会に、東京西部一般労働組合流通サービス分会は東京西部一般労働組合に属しております。なお、当社及びその他の連結子会社に労働組合はありません。また、労使関係について特に記載すべき事項はありません。



## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度の世界経済は、期初より金融市場の混乱や、原油を始めとする原材料価格の高騰などに伴い、減速傾向で推移いたしました。さらに9月以降は米国の大手金融機関の破綻をきっかけに金融不安が一気に加速し、実体経済も大きな影響を受けました。また、米国の景気悪化が対米輸出で好況を続けてきた新興国にも波及し、世界全体で景気後退が進みました。

日本におきましても、これまで景気の牽引役であった輸出が急減し生産が停滞する中、円高の進行もあり、企業業績は大幅に落ち込みました。これに伴う設備投資の減少や、雇用情勢の悪化による個人消費の低迷なども加わり、景気は急速に悪化しました。

当社グループの主要顧客である電子部品業界においても、最終製品であるエレクトロニクス機器、自動車などの販売に急ブレーキがかかり、在庫調整が進められたことによって、大幅な減産を余儀なくされました。また、商品需要構造の変化により、市場ニーズの中心が低価格品へシフトし、製品1台あたりの電子部品搭載数量が減少したことも、需要減に拍車をかけました。

当社グループにおきましては、このような電子部品の荷動きの落ち込みを受け、売上・取扱貨物量が減少するとともに、積載率の低下など事業効率面でも大きな影響を受けました。売上・利益の確保に向けて、全社一丸となって損益分岐点の引き下げと拡販活動を推進してまいりましたが、物量減のスピードに追いつききれず減収減益の決算となりました。

当連結会計年度の事業の種類別セグメントの概況は次のとおりです。

なお、当社は当連結会計年度より事業の種類別セグメントの事業区分を変更しております。電子部品物流事業におきまして、国内外が一体化したグローバルな事業展開が進んでいること、また国内の連結子会社が行っている消費物流事業の事業規模が拡大したことを受け、当社グループの事業の実態をより適切に反映するため見直しを行ったものです。対前期増減率につきましては、前連結会計年度の実績を当連結会計年度における事業区分によって区分し、算出しております。

#### 電子部品物流事業

電子部品物流事業につきましては、期前半より荷動きがスローダウンいたしました。特に昨年11月以降は、電子部品の需要・生産が急減し、取扱貨物量が大幅に落ち込む大変厳しい事業環境となりました。

当社グループでは、顧客の物流効率化や高度化したニーズに適した提案活動を進め、新規顧客の開拓や既存顧客への更なる拡販に取り組んでまいりましたが、全体としては、需要の落ち込みに伴う売上の減少をカバーしきれませんでした。

国内におきましては、運送関連が取扱貨物量の減少によって大幅な減収となりました。また、輸出入関連も全体的な物量減に加え、部材調達の海外間取引の増加に伴い、日本からの輸出が減少した影響を受け、減収となりました。

一方、海外では、中国におきまして中国内完結型の物流ニーズが高まる中、長距離輸送サービスや物流園區・輸出加工区を活用した新たなビジネスモデルの提案、営業活動を推進してまいりました。アセアンにおきましては、昨年8月、タイに現地法人を設立し、輸出入及び保管業務から事業を開始しました。また、北米では、昨年4月に米国・テキサス州マッカレンで新倉庫を立上げ、メキシコの拠点と連携し事業拡大を図っております。これらの活動によって、需要減少に伴う物量落ち込みの影響を最小限にとどめました。

利益面では、取扱貨物量の減少に応じた変動費、固定費の削減を進めてまいりましたが、売上の減少幅が大きく、貨物の積載率などの事業効率低下、燃料費の高騰、競争激化による受託価格下落の影響によって減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は31,231百万円(前期比 7.6%減)、営業利益は2,300百万円(同 47.9%減)となりました。

#### 消費物流事業

消費物流事業を担う株式会社流通サービスでは、食料品など比較的景気変動の影響を受けにくい貨物を取扱っていることもあり、顧客のアウトソーシング・ニーズに対応した拡販活動によって、生協関連の個配業務を中心に順調に売上を拡大しました。また、2007年11月開設の西宮北物流センターも稼働率を向上させ、売上増に寄与いたしました。

営業利益につきましては、上期は燃料費の高騰や労務費増などの影響を受けましたが、下期はこの状況も沈静化し、売上の拡大と原価低減活動によって増益を達成しました。

この結果、当セグメントの売上高は21,690百万円(前期比 6.5%増)、営業利益は858百万円(同 6.6%増)となりました。

## 商品販売事業

商品販売事業におきましては、包装資材及び成形材料の販売に加え、昨年10月より顧客サービスの向上を目的に、電子デバイスの仕入・販売を開始しました。このビジネスによって生じる運送・保管・輸出入関連業務も併せて取扱うこととなります。

顧客の海外生産における資材の現地調達ニーズが高まる中、当社グループでは中国での拡販体制を強化し、売上の拡大を図ってまいりました。しかしながら、秋口以降の減産に伴う需要減によって減収となりました。営業利益につきましても、減収及び原材料価格高騰の影響などによって減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は7,854百万円(前期比 15.2%減)、営業利益は162百万円(同 45.3%減)となりました。

以上により、当連結会計年度の業績は、売上高で60,776百万円(前期比 4.2%減)となり、営業利益は3,320百万円(同 39.8%減)、経常利益は3,344百万円(同 40.7%減)、当期純利益は1,457百万円(同 51.1%減)で減収減益の結果となりました。

所在地別セグメントの業績は次のとおりです。

### 日本

当社では、顧客の物流効率化や高度化したニーズに適した提案活動を進め、新規顧客の開拓や既存顧客への更なる拡販に取り組んでまいりましたが、景気低迷により電子部品の需要・生産が減少し取扱貨物量が大幅に落ち込んだことなどの影響により、前期と比べ大幅に減収減益となりました。

一方、国内子会社である株式会社流通サービスでは消費物流分野におきまして、生協関連の個配業務を中心に順調に売上を拡大しました。また、上期に受けた燃料費の高騰や労務費増などの影響が、下期には沈静化したことなどにより増収増益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は49,912百万円(前期比4.3%減)、営業利益は2,313百万円(同44.1%減)となりました。

### アジア

主に中国を中心に拠点・運送ネットワークの強化や拡販活動を行ってまいりましたが、アジアにおいても景気低迷の影響を受けて、取扱貨物量が大幅に減少したことや資材販売が落ち込んだことなどにより減収減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は10,588百万円(前期比2.3%減)、営業利益は953百万円(同28.3%減)となりました。

### その他の地域

アメリカの連結子会社にて新倉庫の立ち上がりによる増収効果があったものの、メキシコの連結子会社が急激なペソ安の影響を受けたことなどにより、当セグメントの売上高は519百万円(前期比 4.3%減)、営業利益は24百万円(同 21.3%減)となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当連結会計年度末の残高は、前連結会計年度末と比べ808百万円減少し、7,595百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は3,490百万円(前期比1,553百万円の収入減)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の確保3,304百万円などによるものです。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は1,671百万円(前期比1,092百万円の支出減)となりました。これは主にグループ全体での車両購入や当社の新潟営業所での新倉庫購入など有形固定資産の取得1,563百万円によるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は1,941百万円(前期比154百万円の支出増)となりました。これは主に長期及び短期借入金の純減1,120百万円と当社及び子会社での少数株主への配当金の支払い790百万円によるものです。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### 売上高実績

当連結会計年度における売上高実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	
	売上高(百万円)	前年同期比(%)
電子部品物流事業	31,231	92.4
消費物流事業	21,690	106.5
商品販売事業	7,854	84.8
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-
合計	60,776	95.8

(注) 1 外注実績は、次のとおりであります。なお、外注比率は、売上高に対する外注費の割合であります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		
	外注費(百万円)	前年同期比(%)	外注比率(%)
電子部品物流事業	13,974	93.3	44.7
消費物流事業	2,951	110.7	13.6
商品販売事業	-	-	-
セグメント間の内部振替高	-	-	-
合計	16,925	95.9	27.8

2 最近2連結会計年度における主な相手先別の売上高実績及び当該売上高実績の総売上高実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先名	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)		当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	
	売上高(百万円)	総売上高に対する割合(%)	売上高(百万円)	総売上高に対する割合(%)
アルプス電気株式会社	8,842	13.9	7,065	11.6
TDK株式会社	5,032	7.9	4,349	7.2
アルパイン株式会社	1,832	2.9	1,515	2.5

3 上記金額には消費税等は、含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く環境は、世界的な不況からの景気回復に向け、国内外において大規模な施策が講じられ得るなど、世界経済の立て直しに向けた取り組みが進められております。

物流業界におきましては、景気低迷により貨物の絶対量が減少する中、物流各社が事業体質の改善、営業活動の強化に取り組んでおり、貨物の確保に向けた競争はますます厳しさを増しております。

当社グループにおきましては、この厳しい経済環境、需要水準が継続するとの前提に立ち、変動費、固定費の引き下げなど損益分岐点の改善を進め、利益の創出に努めてまいります。

#### <電子部品物流>

昨年9月の金融市場の混乱以降の世界景気の急減速に伴い、取扱貨物量は大幅に減少いたしました。景気ならびに需要の回復時期がいつになるのか、見通しが立ちにくい状況となっております。当社グループにおきましては、当面の間、厳しい経済環境が継続するとの前提に立ち、2009年度の事業方針及び重点戦略を次の通り設定し、事業運営を行ってまいります。

#### 事業方針

「エコドライブ経営」の推進 ~ 「守り」を固め、成長に向けた「攻め」の継続 ~

#### 重点戦略

事業体質の強化	損益分岐点の引き下げ
徹底拡販の推進	新規・深耕拡販による物量の確保・拡大
物流品質の向上	顧客満足度の向上と事業ロスの排除
新商品開発の推進	「物流+商流+情流」を捉えたサービス創出

事業体質の強化に向けた守りの施策として、運送事業での輸送体制の効率化、保管事業での倉庫人員の適正化など各事業における変動費率・固定費の引き下げ、管理部門の経費など固定費削減をさらに推進してまいります。

一方、今後の成長に向け、ネットワークの拡充やシステム力の強化など攻めの事業インフラ・体質強化にも取り組んでまいります。

国内におきましては、昨年に引き続き、輸配送サービス充実にに向けた運送デポ展開を図ってまいります。現在、筑波、山形の2ヶ所で準備を進めております。

海外では、中国におきまして天津で保管事業拡大に向けた新倉庫開設（2009年5月予定）、華南地域での営業強化に向けた広州支店の開設（2009年度上期予定）に着手しております。アセアンでは昨年8月に設立したアルプス・ロジスティクス（タイランド）CO.,LTD.がバンコク、レムチャバンに続く第3の拠点としてアユタヤ地区に倉庫拠点を開設し、保管ビジネスの拡大を図っていく計画です。

システム力の強化につきましても、WEB化・EDI化などの推進によって、顧客サービスや事業効率の向上を図ってまいります。

営業面につきましても、拡販の推進に向けて、本年4月1日付で営業部門の再編を行い、グローバル営業体制を強化いたしました。国内外が連携し、「グローバル・ワンチャンネルサービス」の拡販を進めてまいります。また、営業部門を中心に新商品開発の体制充実に図ることいたしました。昨年度におきましても、物流業務の取り込みも含めたデバイス販売事業の開始、中国固有の制度に対応したサービスの提供など新たなビジネスモデルの創出を行ってまいりましたが、商品開発体制の強化によって、顧客の物流・商流・情流を捉えた新サービスの創出を加速させてまいります。

以上の重点施策を着実に実行し、厳しい事業環境に耐えうる強い事業体質を構築するとともに、需要回復時における備えも進めてまいります。

#### <消費物流>

消費物流分野では、消費者の食の安全に対する意識の高まり、また国内消費のスローダウンなど事業環境が変化する中、主要顧客である生協では物流業務の再編が進められております。これらの顧客ニーズに適した体制の構築、高品質なサービスを進め、生協向けの個配・流通加工の受託量拡大を図ってまいります。生協以外の一般顧客向けには、輸配送ネットワークを強化し、保管・流通加工と合わせた3PL提案を行い、拡販に取り組んでまいります。

2007年11月にスタートした兵庫県西宮市の「西宮北物流センター」につきましては、拡販によって稼働率の向上を図るとともに、関西での基幹拠点として、他地域との長距離輸送ネットワークを強化してまいります。

また、販売管理や倉庫管理システムなどからなる総合マネジメントシステムを活用し、業務効率の向上・管理体制の強化にも取り組んでまいります。

<グリーンロジスティクスへの取組み>

当社は総物流企業として、積極的にグリーンロジスティクスに取り組んでまいります。顧客へのCO<sub>2</sub>排出量データの提供、リターナブルな通い箱の利用、モーダルシフトへの展開など環境保全に向けたサービス・メニューを提供しております。また、当社自体におきましても、CO<sub>2</sub>、電力使用量、廃棄物排出量を管理項目として、毎事業年度ごとに削減目標を設定し、削減活動・環境負荷の軽減に取り組んでおります。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす事項には、次のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項については、有価証券報告書提出日現在におきまして判断したものであります。

##### (1) 景気変動

当社グループは電子部品物流及び消費物流を主とした総合物流事業を展開しております。電子部品物流分野ではメーカーの中国等への生産シフトに対応するため海外子会社での物流体制を強化しており、また、消費物流分野では国内各地での受託体制を拡大しております。当社の顧客は、各国・地域における景気の変動やそれに伴う消費者需要の変動などによる影響を受ける可能性があり、それは当社グループの受託業務量の変動などとリンクする部分があります。そして、各国・地域における景気の後退などは当社グループの業績及び財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 為替変動

当社グループでは電子部品物流のグローバル化に対応し、中国、アセアン及び北米で物流事業を展開しております。メーカーの中国を始めとする海外生産シフトに伴い、海外子会社では受託業務量が増加しております。これらの海外子会社の財務諸表は現地通貨で作成され、連結財務諸表作成のために円換算されております。また、当社におきましてもこれら子会社等に対する外貨建債権債務を有しているため、換算時の為替レートの変動は当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 法的規制

当社グループが国内で営む各種事業は事業の公共性やそれに見合うサービスが提供できるように一般貨物自動車運送事業法(利用運送事業含む)、通関業法及び倉庫業法などの許可を必要としております。また、当社グループが進出している海外各国でも各種の事業法制のもとに規制を受けております。当社グループでは国内外において必要な各種認可、ライセンスを取得し法令遵守のもとに物流事業を遂行しておりますが、これらの法律が改廃された場合、内容によっては当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 業界内での競争

顧客の海外への生産シフトに伴う国内貨物量の減少や大手物流事業者の当社グループの物流業への参入などにより、受託価格やサービス面などの競争は激化しております。当社グループでは専門物流の分野に特化した総合物流事業を展開する中で、拠点・ネットワークの整備拡充と事業基盤・体質の強化に努め、顧客ニーズに対応した高品質なサービスを提供してまいりますが、業界内における価格・サービス面での競争激化の状況によっては当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 特定顧客(親会社等)の動向

当社グループの親会社であるアルプス電気株式会社(当社発行済株式総数の48.8%を所有)を中心としたアルプスグループは、国内外において電子部品、音響製品の製造・販売を行っております。当期において、当社グループがアルプスグループより受託している物流関連業務の総売上高に占める割合は、約25%となっております。このため、景気後退などに伴うアルプスグループにおける生産変動によって、当社グループの受託業務量が減少し、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

##### (6) カントリーリスク

当社グループでは顧客の海外への生産シフトに伴うグローバルな物流ニーズに対応するため、中国、アセアン及び北米において総合物流事業を展開しております。これらの海外物流市場での事業展開には「予期しない法律又は税制の変更」、「不利な政治又は経済要因」、「テロ、戦争、その他の社会的混乱」などのリスクが常に内在されております。これらの事象がおきた場合、当社グループの事業の遂行に深刻な影響を与える可能性があります。

(7) 災害等

当社グループの物流事業は運送、保管及びフォワーダーの物流機能と情報システムによる貨物と情報の一元的な運用により総合物流としての事業運営を行っております。当社グループでは貨物の地震対策やシステムデータのバックアップ体制及び受託貨物保険や火災、地震災害保険の付保など対策をとっておりますが、施設内外で発生する大規模な災害、停電などによる影響を完全に防止又は軽減できる保証はありません。

(8) 機密情報の漏洩・紛失

当社グループでは、業務に関連して多数の個人（従業員を含む）や顧客の機密情報を入手しております。情報管理規程の整備や「プライバシーマーク」の認定取得などにより情報の管理には細心の注意を払っておりますが、何らかの事情によりこれらの情報が外部に漏洩する可能性は否定できません。万が一、個人情報や顧客情報が漏洩した場合、当社グループの社会的信用の低下や損害賠償責任を負うことにより、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態及び経営成績の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社が判断したものです。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づき作成されております。

この連結財務諸表の作成に際し、決算日における資産・負債の数値及び報告期間における収入・費用の数値に影響を与える見積りを行わなければなりません。この見積りは過去の実績や状況に応じ合理的と考えられるさまざまな要因に基づき行っております。実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社は、特に以下の重要な会計方針が当社グループの連結財務諸表の作成において使用される判断と見積りに影響を及ぼすものと考えております。

#### たな卸資産、有価証券

当社グループは当連結会計年度から棚卸資産の評価に関する会計基準を適用しております。これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ17百万円減少しております。

通常の販売目的で保有するたな卸資産は主に移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を、時価の無い有価証券は移動平均法による原価法を、時価のある有価証券は時価法を採用しております。また、その価値が帳簿価額より50%以上下落した時は評価損を計上し、時価のある有価証券についてはその価値が30%以上50%未満の場合は時価の回復可能性等を判断し、評価損を計上しております。

たな卸資産では顧客の将来需要の減少などに伴う陳腐化が生じた場合、有価証券では将来の景気変動などによって投資先が業績不振になった場合、評価損の計上が必要となる可能性があります。

#### 繰延税金資産

繰延税金資産については、回収可能性があると判断できる金額のみ計上しています。繰延税金資産の回収可能性を判断するにあたっては、将来の課税所得等を考慮しています。

すでに計上されている繰延税金資産の全部又は一部を将来回収できないと判断した場合、当該判断を行った期間に繰延税金資産を取崩し、税金費用として計上することになります。逆に回収可能性がないとして未計上であった繰延税金資産が回収可能になったと判断した場合、当該判断を行った期間に繰延税金資産を計上し、税金費用を減少させることになります。

#### 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社グループは当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末の発生費用及び引当金の計上を行っております。退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出されております。この前提条件である割引率、期待収益率、脱退率などが実際の結果と異なる場合、又はこの前提条件の変更は一般的には将来期間における費用及び債務に影響を及ぼします。

#### 固定資産の減損に係る会計基準の適用

減損損失の認識におきましては、将来キャッシュ・フローの見積り等により行っております。

今後、市場環境の変化等により固定資産の収益性が見積りより低下した場合、減損損失の計上が必要となる可能性があります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### 概況

当連結会計年度における我が国経済は、期初より金融市場の混乱や、原油を始めとする原材料価格の高騰などに伴い、減速傾向で推移いたしました。さらに9月以降は米国の大手金融機関の破綻をきっかけに金融不安が一気に加速し、実体経済も大きな影響を受けました。また、米国の景気悪化が対米輸出で好況を続けてきた新興国にも波及し、世界全体で景気後退が進みました。

日本におきましても、これまで景気の牽引役であった輸出が急減し生産が停滞する中、円高の進行もあり、企業業績は大幅に落ち込みました。これに伴う設備投資の減少や、雇用情勢の悪化による個人消費の低迷なども加わり、景気は急速に悪化しました。

当社グループの主要顧客である電子部品業界においても、最終製品であるエレクトロニクス機器、自動車などの販売に急ブレーキがかかり、在庫調整が進められたことによって、大幅な減産を余儀なくされました。また、商品



需要構造の変化により、市場ニーズの中心が低価格品へシフトし、製品1台あたりの電子部品搭載数量が減少したことも、需要減に拍車をかけました。

当社グループにおきましては、このような電子部品の荷動きの落ち込みを受け、売上・取扱貨物量が減少するとともに、積載率の低下など事業効率面でも大きな影響を受けました。売上・利益の確保に向けて、全社一丸となって損益分岐点の引き下げと拡販活動を推進してまいりましたが、物量減のスピードに追いつききれず減収減益の決算となりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は60,776百万円と前期比2,660百万円、4.2%減となり、営業利益は3,320百万円と前期比2,196百万円、39.8%減に、また、当期純利益は、1,457百万円と前期比1,523百万円、51.1%減となりました。

#### 売上高

売上高は、前連結会計年度と比べ4.2%減収の60,776百万円となりました。

事業別で見ますと、電子部品物流事業については、期前半より荷動きがスローダウンし、取扱貨物量が大幅に落ち込む大変厳しい事業環境となりました。当社グループでは、顧客の物流効率化や高度化したニーズに適した提案活動を進め、新規顧客の開拓や既存顧客への更なる拡販などに取り組んでまいりましたが、需要の落ち込みに伴う売上の減少により減収となりました。

消費物流事業では、食料品など比較的景気変動の影響を受けにくい貨物を取扱っていることもあり、生協関連の個配業務を中心に順調に売上を拡大しました。また、既存物流センターの稼働率の向上などにより、増収となりました。

商品販売事業では、包装資材及び成形材料の販売に加え、昨年10月より顧客サービスの向上を目的に、電子デバイスの仕入・販売を開始しました。顧客の海外生産における資材の現地調達ニーズに対応し中国での拡販体制を強化し、売上の拡大を図ってまいりましたが、秋口以降の減産に伴う需要減によって減収となりました。

#### 営業利益

営業利益は、前連結会計年度と比べ39.8%減益の3,320百万円となりました。

これは主に、電子部品物流事業での取扱貨物量の減少による貨物の積載率などの事業効率の低下や、燃料費の高騰、競争激化による受託価格の下落の影響を受けたことによるものであります。特に売上高の減少による影響が大きく減益となりました。なお、事業別の損益の状況は「業績等の概要」のとおりであります。

#### 経常利益

経常利益は、前連結会計年度と比べ40.7%減益の3,344百万円となりました。

これは主に営業利益の減少などによるものであります。

#### 税金等調整前当期純利益

税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度と比べ41.2%減益の3,304百万円となりました。

これは主に経常利益の減少などによるものであります。

#### 法人税等

法人税等は、前連結会計年度と比べ32.4%減少の1,444百万円となりました。

また、税金等調整前当期純利益に対する法人税等の比率（負担率）は、前連結会計年度の38.0%から上昇し43.7%となりました。

これは主に当社にて法人税等調整額の増加があったことなどによるものであります。

#### 少数株主損益

少数株主損益は、国内外の連結子会社の少数株主に帰属する利益からなり、当連結会計年度は前連結会計年度と比べ19.2%減少の403百万円となりました。

これは主に海外子会社において当期純利益が減少したことなどによるものであります。

#### 当期純利益

以上の結果、当期純利益は、前連結会計年度と比べ51.1%減益の1,457百万円となりました。

一株当たり当期純利益は、前連結会計年度の168円45銭に対し、82円34銭となりました。

(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローでは、当連結会計年度における営業活動の結果、得られた資金は3,490百万円（前期比1,553百万円の収入減）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の確保3,304百万円などによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、当連結会計年度における投資活動の結果、使用した資金は1,671百万円（前期比1,092百万円の支出減）となりました。これは主にグループ全体での車両購入や当社の新潟営業所での新倉庫購入など有形固定資産の取得1,563百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、当連結会計年度における財務活動の結果、使用した資金は1,941百万円（前期比154百万円の支出増）となりました。これは主に長期及び短期借入金の純減1,120百万円と当社及び子会社での少数株主への配当金の支払い1790百万円によるものです。

これらの結果及び為替相場の変動が海外子会社の現金及び現金同等物の円換算額に与えた影響などにより、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して808百万円減少し、7,595百万円（前期比 9.6%減）となりました。

資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度における総資産は前連結会計年度末と比べ6.7%減少し46,479百万円に、また、純資産は30,364百万円となり、自己資本比率は3.6ポイント上昇し59.1%となりました。

流動資産は、前連結会計年度と比べ15.3%減少し17,513百万円となりました。これは主に減収に伴う営業未収金の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度と比べ0.5%減少し28,966百万円となりました。これは主に有形固定資産の減価償却などにより減少したものであります。

負債については、前連結会計年度と比べ16.1%減少し16,114百万円となりました。これは主に、仕入の減少などによる営業未払金の減少や、短期借入金の返済を実施したことなどによるものであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、今後の取扱貨物量の増加とグローバルな物流のニーズに対応する為、国内外における物流拠点及びネットワークの強化・拡充に積極的に投資いたしました。これらの結果、当連結会計年度にて、グループ全体で2,359百万円の設備投資となりました。

事業の種目別セグメントの主な設備投資について示すと、次のとおりであります。

電子部品物流事業におきましては、当社の新潟営業所での新倉庫・土地購入取得などによりセグメント合計1,475百万円の設備投資を実施いたしました。

消費物流事業及び商品販売事業におきましては、子会社である株式会社流通サービスにおいて、車両等の取得を行ったことなどにより合計で753百万円の設備投資を行いました。

## 2【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

平成21年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 備品	土地 (面積千㎡)	リース資産	合計	
古川営業所 (宮城県大崎市)	電子部品物流 事業 商品販売事業	物流拠点	216	49	14	941 (23) [5]	-	1,222	130 [73]
相馬営業所 (福島県相馬郡新地町)	電子部品物流 事業	物流拠点	162	2	3	69 (13) -	-	237	25 [6]
小名浜営業所 (福島県いわき市)	電子部品物流 事業	物流拠点	129	17	16	320 (11) [6]	-	484	75 [25]
新潟営業所 (新潟県長岡市)	電子部品物流 事業	物流拠点	152	11	2	216 (8) -	-	383	14 [7]
郡山営業所 (福島県本宮市)	電子部品物流 事業	物流拠点	244	9	1	957 (18) -	-	1,212	25 [13]
羽生営業所 (埼玉県羽生市)	電子部品物流 事業	物流拠点	100	6	18	161 (6) [1]	-	287	61 [26]
高崎営業所 (群馬県藤岡市)	電子部品物流 事業	物流拠点	260	7	12	287 (4) -	-	568	64 [43]
長野営業所 (長野県上伊那郡南箕輪村)	電子部品物流 事業	物流拠点	301	6	12	265 (8) [3]	-	585	37 [14]
横浜営業所 (神奈川県横浜市港北区)	電子部品物流 事業	物流拠点	1,270	19	34	5,909 (31) [0]	-	7,233	138 [62]
松戸営業所 (千葉県松戸市)	電子部品物流 事業	物流拠点	10	41	17	- - (6)	-	69	75 [61]
静岡営業所 (静岡県袋井市)	電子部品物流 事業	物流拠点	227	4	2	578 (7) -	-	812	21 [14]
相良営業所 (静岡県牧之原市)	電子部品物流 事業	物流拠点	6	5	0	- - [2]	-	13	16 [7]
名古屋営業所 (愛知県春日井市)	電子部品物流 事業	物流拠点	21	5	7	48 (0) [10]	-	82	52 [28]
瀬戸営業所 (愛知県瀬戸市)	電子部品物流 事業	物流拠点	1	0	4	- - [9]	-	6	36 [26]
大阪営業所 (大阪府茨木市)	電子部品物流 事業	物流拠点	312	20	12	1,071 (8) -	-	1,417	70 [37]
東大阪営業所 (大阪府東大阪市)	電子部品物流 事業	物流拠点	9	8	13	- - [4]	-	31	48 [33]
福岡営業所 (福岡県福岡市東区)	電子部品物流 事業	物流拠点	1	0	2	- - -	-	3	6 [1]
秋田営業所 (秋田県にかほ市)	電子部品物流 事業	物流拠点	240	37	27	167 (26)	-	472	125 [20]

事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 備品	土地 (面積千㎡)	リース資産	合計	
東京港センター (東京都大田区)	電子部品物流 事業	物流拠点	279	6	18	- - [3]	-	304	93 [8]
成田営業所 (千葉県山武郡芝山町)	電子部品物流 事業	物流拠点	1,703	59	28	307 (11) -	-	2,098	126 [52]
本社 (神奈川県横浜市港北区)	全社	本社設備	63	6	47	- - -	-	118	105 [16]

(注) 1 上記帳簿価額には建設仮勘定は含まれておりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 土地及び建物の一部を賃借しており、年間賃借料は土地37百万円、建物1,005百万円であります。

賃借している土地の面積については [ ] で外書しております。

3 現在休止中の主要な設備はありません。

4 上記の他、主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。

電子部品物流事業

名称	台数(台)	リース期間 (年)	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
電子計算機及び周辺機器	5	3~5	4	1
計	5	-	4	1

5 従業員数の [ ] は、臨時従業員を外書しております。

## (2) 国内子会社

平成21年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 備品	土地 (面積千㎡)	リース資産	合計	
株式会社 流通サービス	本社営業所 (埼玉県草加 市) 他104営業所	消費物流事業	物流拠点	3,493	425	70	1,499 (23) [73]	253	5,742	2,177 [2,604]

(注) 1 上記帳簿価額には建設仮勘定は含まれておりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 土地及び建物の一部を賃借しており、年間賃借料は676百万円であります。

賃借している土地の面積については [ ] で外書しております。

3 現在休止中の主要な設備はありません。

4 上記の他、株式会社流通サービスには主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。

名称	台数(台)	リース期間 (年)	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
機械装置及び物流機器	5	5~7	27	30
電子計算機及び周辺機器	4	5~6	3	11
事業用車両等	59	3~5	70	52
計	68	-	101	94

5 従業員数の [ ] は、臨時従業員を外書しております。

(3) 在外子会社

平成21年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 備品	土地 (面積千㎡)	リース資産	合計	
アルプス物流香港有限公司 (香港・九龍)	電子部品物流 事業	物流拠点	3	2	2	-	-	8	106 [9]
アルプス・ロジスティクス (S) PTE. LTD. (シンガポール)	電子部品物流 事業	物流拠点	8	4	16	-	-	28	54 [-]
アルプス・ナイガイ・ロジス ティクス(マレーシア) SDN. BHD. (マレーシア・ ネグリセンピラン)	電子部品物流 事業	物流拠点	1	1	4	-	-	6	100 [-]
天津泰達アルプス物流 有限公司 (中国・天津市)	電子部品物流 事業	物流拠点	86	167	30	-	-	284	455 [12]
アルプス物流(上海) 有限公司 (中国・上海市)	電子部品物流 事業 商品販売事業	物流拠点	720	7	35	-	-	763	88 [33]
広東アルプス物流有限公司 (中国・広東省東莞市)	電子部品物流 事業	物流拠点	54	14	3	-	-	72	113 [-]
アルプス・ロジスティクス (USA) INC. (米国・カリフォルニア州)	電子部品物流 事業	物流拠点	44	-	0	-	-	45	16 [6]
大連泰達アルプス物流 有限公司 (中国・遼寧省大連市)	電子部品物流 事業 商品販売事業	物流拠点	168	1	14	-	-	184	105 [2]
上海アルプス物流国際貨運 代理有限公司 (中国・上海市)	電子部品物流 事業	物流拠点	-	4	15	-	-	20	113 [13]
アルプス・ロジスティクス・ メキシコ S.A.DE C.V. (メキシコ・レイノサ市)	電子部品物流 事業	物流拠点	-	-	10	-	-	10	60 [-]
アルプス・ロジスティクス (タイランド) CO.,LTD. (タイ・バンコク市)	電子部品物流 事業	物流拠点	-	1	5	-	-	7	9 [-]

(注) 1 上記帳簿価額には建設仮勘定は含まれておりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 建物の一部を賃借しており、年間賃借料は564百万円であります。

3 現在休止中の主要な設備はありません。

4 従業員数の[ ]は、臨時従業員を外書しております。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	事業の 種類別 セグメント の名称	設備の 内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
天津泰達アルプス 物流有限公司	天津本店 (中国・天津市)	電子部品 物流事業	建物及び 構築物 (倉庫建築)	295	161	自己資金	20年7月	21年5月	3,200m <sup>2</sup>
株式会社 流通サービス	本社営業所 (埼玉県草加市)	消費物流 事業	建物及び 構築物 (事務棟)	170	-	自己資金	21年8月	22年2月	233m <sup>2</sup>

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれません。

2 天津泰達アルプス物流有限公司天津本店の新倉庫建築は当初20年12月完成予定でありましたが、天候不順、設計上の建築面積変更により、竣工予定日及び総額が変更になりました。

#### (2) 重要な設備の除却等

平成21年3月31日現在、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成21年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年6月23日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,737,200	17,737,200	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	17,737,200	17,737,200		

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成16年10月1日 (注)	1,402,200	17,737,200	855	2,349	589	2,029

(注) TDK物流株式会社との合併(合併比率1:0.82)に伴うものです。

#### (5)【所有者別状況】

平成21年3月31日現在

区分	株式の状況(単元株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)		17	12	114	44		1,254	1,441	
所有株式数 (単元)		27,504	6,283	104,184	26,549		12,847	177,367	500
所有株式数 の割合(%)		15.5	3.5	58.7	15.0		7.3	100.0	

(注) 1 自己株式41,596株は、「個人その他」に415単元、「単元未満株式の状況」に96株含まれております。

なお、期末日現在の実質的な所有株式数は、株主名簿上の株式数と同一であります。

2 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が3単元含まれております。



(6)【大株主の状況】

平成21年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
アルプス電気株式会社	東京都大田区雪谷大塚町1番7号	8,263	46.6
TDK株式会社	東京都中央区日本橋1丁目13番1号	1,402	7.9
ビービーエイチ フォー フィデリティー ロープライス ストック ファンド (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,228	6.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	730	4.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会 社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	683	3.9
日興シティ信託銀行株式会社	東京都品川区東品川2丁目3番14号	559	3.2
立花証券株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目13番 14号	536	3.0
アルパイン株式会社	東京都品川区西五反田1丁目1番8号	396	2.2
パークレイズ バンク ピーエルシー パー クレイズ キャピタル セキュリティーズ (常任代理人 スタンダードチャータード 銀行)	東京都千代田区永田町2番11番1号 山王パークタワー21階	309	1.7
ザ チェース マンハッタン バンク エヌ エイ ロンドン エス エル オムニバス ア カウント (常任代理人 株式会社みずほコーポ レート銀行)	東京都中央区日本橋兜町6番7号	241	1.4
計		14,351	80.9

(注)1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	730千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	683千株
日興シティ信託銀行株式会社	559千株

2 次の法人から、当事業年度に大量保有報告書の写しの提出があり、次のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当事業年度末現在における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができませんので上記「大株主の状況」では考慮しておりません。

提出者の氏名又は名称	提出日 (報告義務発生日)	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
野村證券株式会社	平成20年11月6日 (平成20年10月31日)	1,019	5.8
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	平成21年3月6日 (平成21年2月27日)	1,162	6.6

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成21年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 41,500		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,695,200	176,952	同上
単元未満株式	普通株式 500		同上
発行済株式総数	17,737,200		
総株主の議決権		176,952	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の中には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。また、「議決権の数」の中には、同社名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

2 「単元未満株式」の中には、当社所有の自己株式が96株含まれております。

【自己株式等】

平成21年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アルプス物流	神奈川県横浜市港北区新羽 町1756番地	41,500		41,500	0.2
計		41,500		41,500	0.2

(8)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得。

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	18	17,280
当期間における取得自己株式	-	-

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 ( )	-	-	-	-
保有自己株式数	41,596	-	41,596	-

### 3【配当政策】

当社は、利益配当につきましては、安定的に配当を行うことを第一に、その水準の向上に努めてまいります。配当の水準につきましては、有利子負債の削減による財務体質の向上を進めるとともに、株主への利益還元、将来の成長に向けての投資、内部留保のバランスを考慮して決定することとしています。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会としております。また、中間配当については「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めており、取締役会にて行うこととしております。

当事業年度につきましては、中間配当として1株につき17円50銭、期末配当として1株につき17円50銭の配当を実施し、年間で35円の配当となっております。

内部留保資金の用途につきましては、有利子負債の返済及び設備投資に充当してまいります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成20年11月4日 取締役会決議	309	17.50
平成21年6月23日 定時株主総会決議	309	17.50

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期
決算年月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月
最高(円)	2,830	2,800	2,740	2,160	1,276
最低(円)	1,935	1,985	1,990	880	609

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成20年10月	11月	12月	平成21年1月	2月	3月
最高(円)	1,045	1,066	995	970	940	744
最低(円)	875	865	851	906	734	609

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名及び職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役社長 代表取締役	山崎 孝一	昭和23年2月27日生	昭和45年4月 アルプス電気(株)入社 平成10年4月 同 営業本部副本部長 平成10年6月 同 取締役 平成18年6月 同 当社常務取締役 平成19年4月 同 国内事業本部長 平成19年6月 同 代表取締役社長(現任)	(注)3	8,000
専務取締役 管理担当 営業担当	大和田 武	昭和19年7月18日生	昭和43年4月 東京電気化学工業(株)(現TDK(株))入社 平成10年6月 TDK(株)取締役 平成16年10月 当社取締役 平成17年6月 同 常務取締役 平成17年6月 同 管理担当(現任) 平成19年4月 同 営業担当(現任) 平成19年6月 同 専務取締役(現任)	(注)3	10,000
常務取締役 国内事業本部長	横山 日出雄	昭和21年8月18日生	昭和46年4月 アルプス電気(株)入社 平成14年4月 当社入社 経営企画室長 平成14年6月 同 取締役 平成16年6月 同 常務取締役(現任) 平成16年10月 同 海外事業本部長 平成21年4月 同 国内事業本部長(現任)	(注)3	8,600
取締役	片岡 政隆	昭和21年6月30日生	昭和47年4月 アルプス電気(株)入社 昭和63年6月 同 代表取締役社長(現任) 平成5年6月 同 当社取締役(現任)	(注)2	33,000
取締役	川添 藤夫	昭和13年11月28日生	昭和32年4月 大和運輸(株)(現ヤマト運輸(株))入社 昭和49年10月 (株)流通サービス設立 同 代表取締役社長(現任) 平成8年10月 当社顧問 平成9年6月 同 取締役(現任)	(注)2	5,000
取締役 情報システム担当	多田 利博	昭和25年2月17日生	昭和48年4月 アルプス電気(株)入社 平成7年10月 当社入社 平成9年2月 同 情報システム部長(現任) 平成15年6月 同 取締役 情報システム担当(現任)	(注)2	3,600
取締役 中国担当	須藤 泰秀	昭和24年10月6日生	昭和63年2月 アルプス電気(株)入社 平成6年7月 当社入社 アルプス物流香港有限公司董事長 平成16年10月 当社海外事業本部中国現法担当 平成17年6月 同 取締役(現任) 平成17年11月 上海アルプス物流国際貨運代理有限公司總經理(現任) 平成21年4月 当社中国担当(現任)	(注)2	14,300
取締役 国際事業本部長 事業推進担当	佐伯 和好	昭和29年6月30日生	昭和53年4月 アルプス電気(株)入社 平成12年10月 同 角田工場長 平成15年1月 ALCOM ELECTRONICOS DE MEXICO, S.A. DE C.V. 取締役 平成19年12月 当社入社 平成20年7月 同 国内事業本部副本部長 平成21年4月 同 国際事業本部長(現任) 同 事業推進担当(現任) 平成21年6月 同 取締役(現任)	(注)2	1,000

役名及び職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(株)
常勤監査役	法華津 忠	昭和23年11月18日生	昭和46年4月 平成5年2月 平成10年4月 平成13年4月 平成15年4月 平成20年7月 平成21年6月	アルプス電気(株)入社 当社入社 同 第三営業部長 同 事業企画部長 同 事業推進部長 同 国内事業本部長 同 常勤監査役(現任)	(注)4	1,500
監査役	幸頭 英治	昭和20年2月8日生	昭和44年3月 平成12年6月 平成16年6月 平成21年4月 平成21年6月	アルプス電気(株)入社 同 取締役 同 常務取締役(現任) 同 構造改革推進担当(現任) 当社監査役(現任)	(注)4	2,100
監査役	竹之内 明	昭和22年5月26日生	昭和54年4月 平成14年6月	弁護士登録 当社監査役(現任)	(注)4	
監査役	吉野 賢治	昭和12年2月8日生	昭和44年8月 平成17年6月 平成18年6月 平成20年6月	公認会計士登録 アルプス電気(株)監査役(現任) アルパイン(株)監査役(現任) 当社監査役(現任)	(注)5	
計						87,100

(注)1 監査役幸頭 英治、監査役竹之内 明及び監査役吉野 賢治は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

- 2 平成21年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 3 平成20年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 4 平成21年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 5 平成20年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

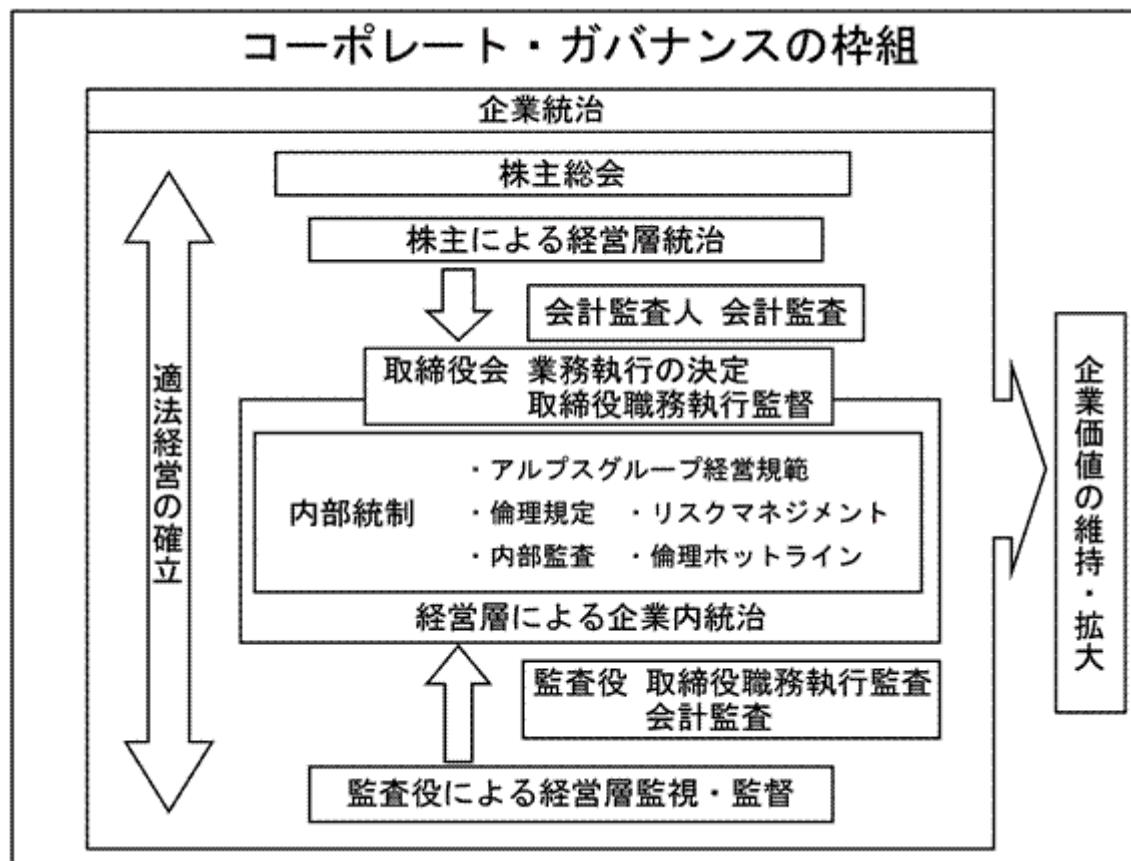
### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 基本的な考え方

当社グループは、当社の親会社であるアルプス電気株式会社を中心としたアルプスグループに属しており、当社は同グループにおける物流事業部門の基幹会社と位置付けられています。

アルプスグループでは、コーポレート・ガバナンスを「企業価値を増大するため、経営層に対して適正かつ効率的な意思決定と業務執行、ならびにステークホルダーに対する迅速な結果報告を動機付け、健全かつ効率的で透明性のある経営を実現する仕組みの構築・運用」と定義しています。そして、株主を始め、全てのステークホルダーの利益最大化が重要と考え、企業価値の最大化を図り、かつステークホルダー間の利益をバランス良く満たし、その利益を直接・間接的に還元することを基本としています。

当社グループは、アルプスグループの一員として公共的・社会的使命（CSR）を果すべく、アルプスグループの創業の精神を表す「社訓」を経営及びCSRの原点と位置付け、当社グループ全体の健全で効率的な企業活動を推進していきます。



#### コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

当社は経営の健全性の確保と効率性の向上をバランス良く保つとの観点から、会社機関として監査役設置会社を採用しています。

監査役には当社の業務に精通した者の他、法律の専門家または実務経験者、及び会計の専門家または実務経験者を置くようにし、法務面及び会計面等からの監査を実施していることから、経営の監視機能の面で十分に機能する体制が整っていると考えています。

#### ）取締役・取締役会

取締役会は、経営の基本方針や経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、職務執行状況の監視・監督を行う機関と位置付けています。また、取締役会は機動的な運営が可能な人数で構成されており、毎月1回の定例開催に加え、必要に応じて臨時開催を行い、重要事項を全て付議し、十分な討議を経た上で決議を行っています。

そして、担当取締役を本社の機能別及び事業本部ごとに設置し、執行責任の所在を明確にすることにより、適正かつ効率的に職務の執行が行われる体制をとっています。

) 監査役・監査役会

監査役は、取締役会に出席するとともに、取締役の職務執行及び国内外の関係会社を含めた監査を実施しています。監査役会は、監査に関する重要事項の報告を受け、協議・決定を行っています。社外監査役を含む監査役の職務を補助する組織として、監査役室を設置し、機動性を高めた監査活動が可能な体制を整備しています。また監査役は、会計監査人、内部監査室、コンプライアンス担当及び経理部門と緊密な連携を保つため、定期的に監査業務連絡会を開催し意見交換するなど、監査が実効的に行われる体制を確保しています。

) 会計監査人

会計監査人については、新日本有限責任監査法人を選任しています。会計監査人は、内部監査室及び監査役と必要に応じ、情報交換を行うことで相互の連携を深めています。当期において業務を執行した新日本有限責任監査法人の公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については以下のとおりです。

・業務を執行した公認会計士の氏名

高橋英夫、矢崎弘直

\*継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しています。

\*同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっています。

・会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士2名、会計士補等7名

) 社外取締役及び社外監査役との関係

当社は社外取締役を選任していません。

社外監査役につきましては、3名選任しています。幸頭英治氏は、当社の親会社であるアルプス電気株式会社の取締役を、吉野賢治氏は、同社の監査役を兼任していますが2名と当社との間には、資本的関係または取引関係その他利害関係はありません。また、竹之内明氏と当社との間には人的関係、資本的関係または取引関係その他利害関係はありません。

) 役員報酬等

当期における役員報酬等の内容は以下のとおりです。

(役員報酬等の内容)

・取締役及び監査役に支払った報酬

取締役 9名 151百万円

監査役 5名 27百万円 (うち社外3名 11百万円)

(注)1. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与及び賞与は含んでおりません。

2. 上記の取締役及び監査役の人数及び報酬等の総額には、平成20年6月24日開催の第44回定時株主総会の終結の時をもって任期満了により退任した取締役2名及び監査役1名を含んでおります。

3. 上記の取締役の報酬等の総額には、当事業年度において計上した役員退職慰労引当金繰入額を含んでおります。

取締役への報酬は、社内規定に定められた基準に基づき公正に決定されており、そこにおいて短期及び中長期の業績向上に対するインセンティブを考慮することで有効に機能していると認識しています。

) 内部監査室

当社では内部監査室(7名)を設置し、当社及び国内外の関係会社について、業務の有効性と効率性を含めた監査を実施しております。監査結果を定期的に取締役会に報告し、牽制機能の充実を図るとともに、業務改善提案も行っています。

また、アルプスグループ監査連絡会に参加し、アルプスグループにおける監査情報の交換を図っております。

) CSR委員会

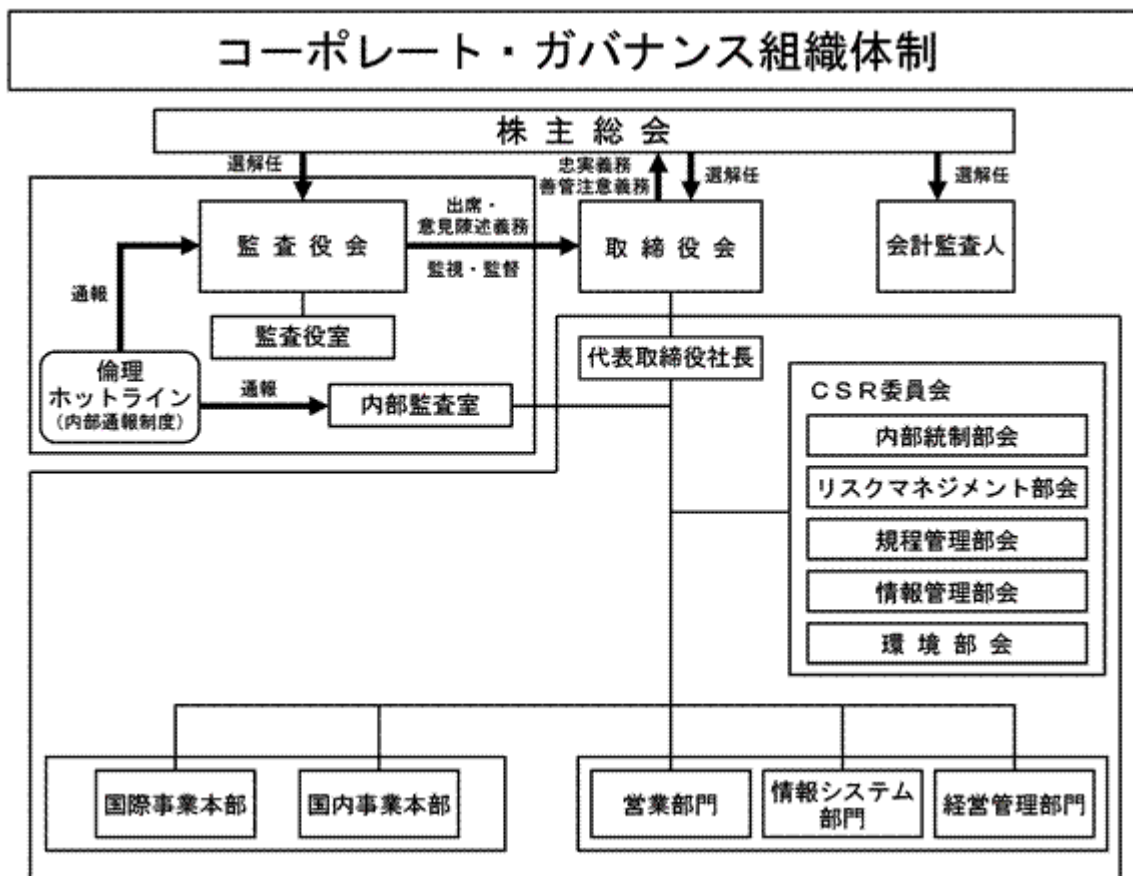
当社は企業の社会的責任を果たすため、代表取締役社長の直轄組織としてCSR委員会を設置しています。当委員会は、5つの部会(内部統制・リスクマネジメント・規程管理・情報管理・環境)で構成され、委員会ではCSR全社方針・体制に関する事項や各部会の活動方針の審議・決定及び進捗状況の確認を行い、各部会では定められた方針に基づき活動しております。必要に応じ代表取締役社長及び取締役会に対し、活動状況の報告、方針等の提案を行っております。



）経営計画会議

取締役及び常勤監査役が出席のもと、経営計画会議を年2回開催し、当社ならびに当社グループ各社の中・短期の経営計画に関する審議と情報の共有化を図っています。そして、経営計画の重要項目については、各社の取締役会で決議し、業務遂行が行われています。

当社の業務執行・経営の監視・内部統制・リスク管理体制の整備の状況の模式図は次のとおりです。



その他コーポレート・ガバナンスに影響を与える特別な事情

当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの「基本的な考え方」をベースに、アルプスグループ経営規範（「グループ経営規程」、「グループコンプライアンス憲章」及び「グループ環境憲章」）のもとで、当社グループ全体の体制整備に努めています。

アルプス電気株式会社は当社の親会社であり、親会社の取締役1名が当社の取締役を、親会社の取締役1名が当社の監査役を、また親会社の監査役1名が当社の監査役を兼務しています。当社は、アルプスグループの中で、上場会社として自主性を尊重されており、経営計画の立案、業績管理を行い、自立した経営判断のもと事業活動を展開しています。

支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

親会社及び親会社グループ各社との取引については、市場価格をベースとし、親子関係を利用した不当な値引き要求や見積りの過大評価等を自主的に規制し、公正な価格で取引を行っております。

内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社グループはアルプスグループの一員として公共的・社会的使命（CSR）を果たすべく、アルプスグループの創業の精神を表す「社訓」を経営及びCSRの原点とし、当社グループ全体の健全で効率的な企業活動を確保するための体制の充実を図っています。

#### 内部統制システムについて

##### ）取締役の法令及び定款適合性を確保するための体制

当社は、アルプスグループコンプライアンス憲章のもとに倫理規定を制定し、コンプライアンスについての理念と行動指針を定めています。

- ・人事総務部は、社会規範・企業倫理・法令を遵守した行動の推進を図っています。
- ・取締役会の議案については、取締役会規則に基づき人事総務部が、外部の法律の専門家によるチェックも含めて、適法性や合理性に関する確認を行い、取締役会の決議の適法性を確保しています。
- ・人事総務部は、原則として全ての契約の作成に際し、社内における検討・確認を行うとともに、外部の法律の専門家に審査を依頼することで、適法性及び合理性の確認を行っています。
- ・監査役による適法性監査及び会計監査の実効性を確保するため、監査役には当社の事業に精通した者の他、法律の専門家または実務経験者、及び会計の専門家または実務経験者を置くようにしています。

##### ）取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の意思決定に至る過程及び意思決定に基づく執行の状況を、文書または電子データで保存・管理しています。また、各担当部門が保管する情報・保存方法を明確にし、必要に応じて閲覧可能な状態を維持しています。

##### ）損失の危険の管理に関する規程その他の体制

業務執行にかかる種々のリスクについては、当社グループ各社で業務規程の見直しを行い、経営が関与すべき重要なリスクの評価・把握を行う体制の整備を進めています。

- ・重要な業務については、各部署で進める業務プロセスの整備とその運用を管理し、内部統制システムの効率的な運用を進めています。
- ・当社グループ各社間でリスクに関する情報の共有化を図ります。

##### ）取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

本社の機能別及び事業本部ごとにそれぞれ担当取締役を設置し、執行責任の所在を明確にすることにより、適正かつ効率的に職務が行われる体制をとっています。

- ・取締役会で経営計画の大綱を作成し、それに基づいて各部署において中短期目標の策定及び業績管理を行っています。
- ・内部監査室は、業務の有効性と効率性も監査対象とし、取締役会に対して結果報告のみならず改善提案を行い、監査役会及び会計監査人に対しても監査結果を報告しています。

##### ）使用人の職務執行の法令及び定款適合性を確保するための体制

監査役、内部監査室などの内部統制機関及び人事総務部は、相互に連携の上、コンプライアンス上の問題の有無の把握に努めています。

- ・内部監査室は、連結子会社の業務執行部門等と連携をとりながら、当社グループ全体の内部統制システム構築とその運用状況を監査し、改善策等の提案を行います。
- ・人事総務部は、健全な企業風土を醸成するため、全社的なコンプライアンス教育を定期的を実施しています。
- ・社内通報制度（倫理ホットライン）を設置し、企業倫理や社内規定及び法令に係る違反を防止、早期発見及びその是正を図っています。

##### ）親会社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

アルプスグループの創業の精神（社訓）を経営の原点と位置づけ、アルプスグループ経営規範（グループ経営規程、グループコンプライアンス憲章及びグループ環境憲章）のもとに、当社グループ全体の体制整備に努めています。

- ・当社グループ各社に関する重要事項について、社内規定に基づき当社の取締役会において審議・報告されています。
- ・当社グループ内での取引、またアルプスグループ各社と当社グループの取引価格の設定については市場価格をベースとし、親子関係を利用した不当な値引き要求や見積りの過大評価等を自主的に規制し、公正な価格で取引を行っております。
- ・アルプスグループ監査連絡会に参加し、アルプスグループにおける監査役・内部監査室の連携強化を図っています。
- ・当社はアルプスグループにおいて自主性を尊重されており、自立した経営判断のもと事業活動を展開しています。

##### ）監査役の職務を補助する使用人に関する事項

監査役の職務を補助する組織として、監査役室を設置しています。また、監査業務の実行に際しては、内部監査室が監査役の監査業務を補助しています。

） 監査役補助者の取締役からの独立性に関する事項

監査役室及び内部監査室長の人事異動・人事考課については監査役会の同意を要するものとします。

） 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制

内部不正行為や会社に著しい損害を及ぼすおそれのある重要事項については、取締役はすみやかにこれを監査役に報告し、要求があれば監査役会に出席して必要な資料を提出するとともに説明を行う体制をとっています。また、社内通報制度（倫理ホットライン）により使用人が常勤監査役または内部監査室長に報告する体制をとっています。

） その他監査役の監査が実効的に行われることを確保する体制

監査役は、会計監査人、内部監査室、コンプライアンス担当及び経理部門と緊密な連携を保つため、定期的に監査業務連絡会を開催して意見交換を行っています。

反社会的勢力排除について

当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切関係をもたず、更にそれらからの要求を断固拒否する方針を堅持します。

人事総務部が反社会的勢力及び団体に関する対応を統括する組織として、社内関係部門及び警察等外部専門機関との協力体制を整備しています。また、不当要求に対応するため、該当部門への情報提供や教育を行っています。

取締役の定数

当社の取締役は、15名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社の取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

当社は、半期ごとの安定的かつ継続的な株主への利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

これは、株主総会における定足数を緩和することにより、株主総会の機動的な運営を可能とすることを目的としております。

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	-	-	53	-
連結子会社	-	-	35	3
計	-	-	88	3

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の連結財務諸表及び前事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の財務諸表については、新日本監査法人により監査を受け、当連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の連結財務諸表及び当事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の財務諸表については、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、新日本監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成20年7月1日をもって新日本有限責任監査法人となっております。

1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,767	7,888
受取手形及び営業未収金	9,638	7,420
たな卸資産	562	-
商品	-	580
貯蔵品	-	42
繰延税金資産	537	486
その他	1,181	1,102
貸倒引当金	7	8
流動資産合計	20,679	17,513
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	<sup>2</sup> 19,812	<sup>2</sup> 19,891
減価償却累計額	8,973	9,593
建物及び構築物（純額）	10,838	10,298
機械装置及び運搬具	5,597	5,732
減価償却累計額	4,375	4,775
機械装置及び運搬具（純額）	1,222	957
工具、器具及び備品	2,108	2,190
減価償却累計額	1,531	1,679
工具、器具及び備品（純額）	577	511
土地	<sup>2</sup> 12,530	<sup>2</sup> 12,802
リース資産	-	305
減価償却累計額	-	52
リース資産（純額）	-	253
建設仮勘定	10	258
有形固定資産合計	25,179	25,081
無形固定資産	1,235	1,290
投資その他の資産		
投資有価証券	393	272
繰延税金資産	674	592
その他	<sup>1</sup> 1,651	1,739
貸倒引当金	9	9
投資その他の資産合計	2,710	2,593
固定資産合計	29,124	28,966
資産合計	49,804	46,479

	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	4,829	3,215
短期借入金	2 3,490	2 2,472
リース債務	-	96
未払法人税等	1,202	440
繰延税金負債	12	3
賞与引当金	1,034	1,046
未払費用	1,569	1,530
設備関係支払手形	104	45
その他	866	959
流動負債合計	13,108	9,808
固定負債		
長期借入金	2 4,689	2 4,566
リース債務	-	171
繰延税金負債	1	-
退職給付引当金	1,086	1,212
役員退職慰労引当金	291	277
その他	41	78
固定負債合計	6,109	6,305
負債合計	19,218	16,114
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,349	2,349
資本剰余金	2,029	2,029
利益剰余金	22,980	23,818
自己株式	50	50
株主資本合計	27,308	28,146
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12	60
為替換算調整勘定	327	636
評価・換算差額等合計	340	697
少数株主持分	2,937	2,915
純資産合計	30,586	30,364
負債純資産合計	49,804	46,479

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)
売上高	63,437	60,776
売上原価	54,414	<sup>1</sup> 53,414
売上総利益	9,022	7,362
販売費及び一般管理費	<sup>2</sup> 3,505	<sup>2</sup> 4,041
営業利益	5,516	3,320
営業外収益		
受取利息	92	67
受取配当金	7	7
保険返戻金	136	112
負ののれん償却額	1	-
その他	143	125
営業外収益合計	381	313
営業外費用		
支払利息	149	129
為替差損	84	119
その他	25	40
営業外費用合計	259	289
経常利益	5,639	3,344
特別利益		
固定資産売却益	<sup>3</sup> 2	<sup>3</sup> 58
貸倒引当金戻入額	2	2
特別利益合計	5	60
特別損失		
固定資産除売却損	<sup>4</sup> 28	<sup>4</sup> 46
前期損益修正損	-	54
特別損失合計	28	100
税金等調整前当期純利益	5,615	3,304
法人税、住民税及び事業税	2,237	1,277
法人税等調整額	101	166
法人税等合計	2,135	1,444
少数株主利益	499	403
当期純利益	2,980	1,457



## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	2,349	2,349
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,349	2,349
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	2,029	2,029
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,029	2,029
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	20,442	22,980
当期変動額		
剰余金の配当	442	619
当期純利益	2,980	1,457
当期変動額合計	2,538	837
当期末残高	22,980	23,818
<b>自己株式</b>		
前期末残高	50	50
当期変動額		
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	50	50
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	24,770	27,308
当期変動額		
剰余金の配当	442	619
当期純利益	2,980	1,457
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	2,538	837
当期末残高	27,308	28,146

	前連結会計年度 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	209	12
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	196	73
当期変動額合計	196	73
当期末残高	12	60
<b>為替換算調整勘定</b>		
前期末残高	341	327
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	14	963
当期変動額合計	14	963
当期末残高	327	636
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	550	340
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	210	1,037
当期変動額合計	210	1,037
当期末残高	340	697
<b>少数株主持分</b>		
前期末残高	2,630	2,937
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	307	21
当期変動額合計	307	21
当期末残高	2,937	2,915
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	27,951	30,586
当期変動額		
剰余金の配当	442	619
当期純利益	2,980	1,457
自己株式の取得	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	96	1,059
当期変動額合計	2,635	221
当期末残高	30,586	30,364

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	5,615	3,304
減価償却費	1,767	1,780
負ののれん償却額	1	-
貸倒引当金の増減額（ は減少）	24	2
賞与引当金の増減額（ は減少）	96	12
退職給付引当金の増減額（ は減少）	100	126
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	6	13
受取利息及び受取配当金	100	75
支払利息	149	129
固定資産除売却損	28	46
売上債権の増減額（ は増加）	351	1,889
たな卸資産の増減額（ は増加）	80	127
仕入債務の増減額（ は減少）	170	1,404
その他の流動負債の増減額（ は減少）	138	67
その他	30	112
小計	7,430	5,716
利息及び配当金の受取額	98	76
利息の支払額	153	131
法人税等の支払額	2,332	2,171
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>5,043</b>	<b>3,490</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額（ は増加）	155	55
投資有価証券の取得による支出	85	3
有形固定資産の取得による支出	1,975	1,563
有形固定資産の売却による収入	7	14
無形固定資産の取得による支出	379	349
無形固定資産の売却による収入	-	278
その他投資活動による収入	127	130
その他投資活動による支出	302	233
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,763</b>	<b>1,671</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	1,523	740
長期借入れによる収入	1,400	400
長期借入金の返済による支出	984	780
配当金の支払額	442	619
少数株主への配当金の支払額	236	171
少数株主からの払込みによる収入	-	24
その他財務活動による支出	1	54
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,787</b>	<b>1,941</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	685
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	477	808
現金及び現金同等物の期首残高	7,926	8,403
現金及び現金同等物の期末残高	8,403	7,595

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
1 連結の範囲に関する事項	<p>子会社はすべて連結されております。 当該連結子会社は、 株式会社流通サービス アルプス物流香港有限公司 アルプス・ロジスティクス(S) PTE.LTD. アルプス・ナイガイ・ロジスティクス (マレーシア)SDN.BHD. 天津泰達アルプス物流有限公司 アルプス物流(上海)有限公司 広東アルプス物流有限公司 アルプス・ロジスティクス(USA)INC. 大連泰達アルプス物流有限公司 上海アルプス物流国際貨運代理有限公司 アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. の11社であります。</p>	<p>子会社はすべて連結されております。 当該連結子会社は、 株式会社流通サービス アルプス物流香港有限公司 アルプス・ロジスティクス(S) PTE.LTD. アルプス・ナイガイ・ロジスティクス (マレーシア)SDN.BHD. 天津泰達アルプス物流有限公司 アルプス物流(上海)有限公司 広東アルプス物流有限公司 アルプス・ロジスティクス(USA)INC. 大連泰達アルプス物流有限公司 上海アルプス物流国際貨運代理有限公司 アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. アルプス・ロジスティクス(タイラ ド)CO.,LTD. の12社であります。 アルプス・ロジスティクス(タイラ ド)CO.,LTD.については、当連結会計年度 において新たに設立したことにより、当連 結会計年度より連結の範囲に含めており ます。</p>
2 持分法の適用に関する事 項	<p>当該持分法適用関連会社は、 上海東軟時代物流軟件有限公司 の1社であります。 同社は、決算日が連結決算日と異なるた め、同社の事業年度に係る決算財務諸表を 使用しております。</p>	<p>持分法適用会社 (1) 持分法適用会社の変更 当連結会計年度より、上海東軟時代 物流軟件有限公司は会社清算手続きを 行ったため、持分法適用の範囲から除 いております。 (2) 変更後の持分法適用会社はありませ ん。</p>

項目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
<p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項</p>	<p>連結子会社のうち、株式会社流通サービスは連結決算日に一致しております。 連結子会社のうち、決算日が12月31日の会社は以下の10社であります。 アルプス物流香港有限公司 アルプス・ロジスティクス(S) PTE.LTD. アルプス・ナイガイ・ロジスティクス(マレーシア)SDN.BHD. 天津泰達アルプス物流有限公司 アルプス物流(上海)有限公司 広東アルプス物流有限公司 アルプス・ロジスティクス(USA)INC. 大連泰達アルプス物流有限公司 上海アルプス物流国際貨運代理有限公司 アルプス・ロジスティクス・メキシコS.A. DE C.V. 連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の決算財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。</p>	<p>連結子会社のうち、株式会社流通サービスは連結決算日に一致しております。 連結子会社のうち、決算日が12月31日の会社は以下の11社であります。 アルプス物流香港有限公司 アルプス・ロジスティクス(S) PTE.LTD. アルプス・ナイガイ・ロジスティクス(マレーシア)SDN.BHD. 天津泰達アルプス物流有限公司 アルプス物流(上海)有限公司 広東アルプス物流有限公司 アルプス・ロジスティクス(USA)INC. 大連泰達アルプス物流有限公司 上海アルプス物流国際貨運代理有限公司 アルプス・ロジスティクス・メキシコS.A. DE C.V. アルプス・ロジスティクス(タイランド)CO.,LTD. 連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の決算財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。</p>
<p>4 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p>	<p>有価証券          その他有価証券          時価のあるもの          ...当連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。          時価のないもの          ...移動平均法による原価法を採用しております。          デリバティブ          ...時価法を採用しております。          たな卸資産          仕入商品及び貯蔵品          ...主として移動平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>有価証券          その他有価証券          時価のあるもの          同左            時価のないもの          同左            たな卸資産          通常の販売目的で保有するたな卸資産商品及び貯蔵品          主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。</p>

項目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)						
(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法	<p>有形固定資産 当社と国内連結子会社は定率法を、在外連結子会社は定額法を採用しております。</p> <p>ただし、当社と国内連結子会社は、平成10年4月1日以降取得した建物（建物付属設備を除く）については、定額法によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>2～50年</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>2～17年</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>2～20年</td> </tr> </table> <p>(会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ78百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>	建物及び構築物	2～50年	機械装置及び運搬具	2～17年	工具、器具及び備品	2～20年	<p>(会計方針の変更) 当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日公表分)を適用しております。</p> <p>これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ17百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>(追加情報) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正を契機として耐用年数の見直しを行い、機械装置については平成20年4月1日より改正後の耐用年数に基づく減価償却を行っております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益への影響は軽微であります。</p>
建物及び構築物	2～50年							
機械装置及び運搬具	2～17年							
工具、器具及び備品	2～20年							

項目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
(3) 重要な引当金の計上基準	<p>(追加情報)</p> <p>当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>この結果、従来の方法に比べ、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ30百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>無形固定資産 定額法を採用しております。</p> <p>ただし、ソフトウェア(自社利用分)については社内における利用可能期間(3~5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>貸倒引当金 ...売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 ...従業員の賞与金の支払に備えて支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。</p>	<p>無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額については、残価保証の取決めがあるリース取引は当該残価保証額、その他については零とする定額法によっております。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>貸倒引当金 同左</p> <p>賞与引当金 同左</p>



項目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
	退職給付引当金 ...当社及び国内連結子会社である株式会社流通サービスは従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(4~13年)による按分額を費用処理しております。 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間(4~13年)による按分額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。	退職給付引当金 同左
	役員退職慰労引当金 ...当社及び国内連結子会社は、役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。	役員退職慰労引当金 同左
(4) 重要なリース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	
(5) 重要なヘッジ会計の方法	ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ・ヘッジ手段 金利スワップ ・ヘッジ対象 借入金 ヘッジ方針 金利リスクの低減並びに金融収支改善のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。 ヘッジの有効性評価の方法 特例処理を採用している金利スワップのみのため、有効性の評価を省略しております。	
(6) その他重要な事項	消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しております。	消費税等の会計処理 同左

項目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価方法は、全面時価評価法によっております。	同左

6 のれん及び負ののれんに 関する事項	のれん及び負ののれんは、5年間で均等償却しております。	
7 連結キャッシュ・フロー 計算書における資金の範囲	手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期投資を計上しております。	同左

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
	<p>(連結財務諸表における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しております。</p> <p>なお、これによる当連結会計年度の損益に与える影響はありません。</p> <p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>これによる当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。</p>

## 【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
	(連結貸借対照表関係) 「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品」及び「貯蔵品」に区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品」及び「貯蔵品」は、それぞれ532百万円、30百万円であります。

## 【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
1 関連会社に関するものは次のとおりであります。 投資その他の資産 その他(出資金) 18百万円 2 担保提供資産及び担保債務 担保に供している資産は次のとおりであります。 建物及び構築物 2,790百万円 土地 2,997 " <hr/> 計 5,787 "           担保付債務は次のとおりであります。 短期借入金 473百万円 長期借入金 2,662 "	1 2 担保提供資産及び担保債務 担保に供している資産は次のとおりであります。 建物及び構築物 2,622百万円 土地 2,997 " <hr/> 計 5,620 " 担保付債務は次のとおりであります。 短期借入金 445百万円 長期借入金 2,216 "

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)				当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)			
1				1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 17百万円			
2	販売費及び一般管理費の主要な項目と金額は次のとおりであります。			2 販売費及び一般管理費の主要な項目と金額は次のとおりであります。			
賃金給与及び諸手当等	1,817百万円			賃金給与及び諸手当等	2,021百万円		
退職給付費用	57 "			退職給付費用	72 "		
役員退職慰労引当金繰入額	52 "			役員退職慰労引当金繰入額	30 "		
賞与引当金繰入額	190 "			賞与引当金繰入額	188 "		
3	固定資産売却益の内訳			3 固定資産売却益の内訳			
機械装置及び運搬具	2百万円			土地使用权(無形固定資産に含む)	52百万円		
その他	0 "			その他	5 "		
計	2 "			計	58 "		
4	固定資産除売却損の内訳			4 固定資産除売却損の内訳			
	除却	売却	計		除却	売却	計
	(百万円)	(百万円)	(百万円)		(百万円)	(百万円)	(百万円)
建物及び構築物	6	6	12	建物及び構築物	22	0	22
その他	7	8	16	借地権(無形固定資産に含む)	17	-	17
計	13	15	28	その他	4	2	6
				計	43	2	46

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	17,737	-	-	17,737
合計	17,737	-	-	17,737
自己株式				
普通株式	41	-	-	41
合計	41	-	-	41

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成19年6月22日 定時株主総会	普通株式	221	12.5	平成19年3月31日	平成19年6月25日
平成19年11月7日 取締役会	普通株式	221	12.5	平成19年9月30日	平成19年12月7日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年6月24日 定時株主総会	普通株式	309	利益剰余金	17.5	平成20年3月31日	平成20年6月25日

当連結会計年度（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	17,737	-	-	17,737
合計	17,737	-	-	17,737
自己株式				
普通株式	41	0	-	41
合計	41	0	-	41

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成20年6月24日 定時株主総会	普通株式	309	17.5	平成20年3月31日	平成20年6月25日
平成20年11月4日 取締役会	普通株式	309	17.5	平成20年9月30日	平成20年12月5日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成21年6月23日 定時株主総会	普通株式	309	利益剰余金	17.5	平成21年3月31日	平成21年6月24日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前連結会計年度 （自平成19年4月1日 至平成20年3月31日）		当連結会計年度 （自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）	
現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目金額との関係		現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目金額との関係	
現金及び預金勘定	8,767百万円	現金及び預金勘定	7,888百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	363 "	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	293 "
現金及び現金同等物	8,403 "	現金及び現金同等物	7,595 "

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)				当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)			
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 消費物流事業における設備(機械装置及び運搬具等)であります。 リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)
機械装置及び運搬具	473	292	180	機械装置及び運搬具	331	249	82
工具、器具及び備品	66	45	21	工具、器具及び備品	61	48	13
合計	540	338	202	合計	393	297	95
(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。  (2) 未経過リース料期末残高相当額 1年以内 106百万円 1年超 95 〃 合計 202 〃				(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。  (2) 未経過リース料期末残高相当額 1年以内 60百万円 1年超 35 〃 合計 95 〃			
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。  (3) 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料 121百万円 減価償却費相当額 121 〃				(注) 未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。  (3) 支払リース料及び減価償却費相当額 支払リース料 106百万円 減価償却費相当額 106 〃			
(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。			

(有価証券関係)

前連結会計年度

有価証券

1 その他有価証券で時価のあるもの

	前連結会計年度(平成20年3月31日)		
	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	92	160	67
小計	92	160	67
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	268	223	45
小計	268	223	45
合計	361	383	22

2 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額

その他有価証券

非上場株式	9百万円
投資信託	31百万円

3 その他有価証券のうち満期があるものの今後の償還予定額

投資信託

1年以内	31百万円
------	-------

当連結会計年度

有価証券

1 その他有価証券で時価のあるもの

	当連結会計年度(平成21年3月31日)		
	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	91	107	16
小計	91	107	16
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	272	154	117
小計	272	154	117
合計	364	262	101

2 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額

その他有価証券

非上場株式	9百万円
-------	------

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

(a) 取引の状況に関する事項

イ. 取引の内容及び利用目的

借入金について金利変動によるリスクを回避するため、金利スワップを行っております。

ロ. 取引に対する取組方針

借入金等について、特に重要な金利変動リスクを回避する目的で利用するものであり、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針であります。

ハ. 取引に係るリスクの内容

金利スワップについては、市場の金利変動によるリスクを有しております。契約先には信用度の高い金融機関を選定するため、相手先の債務不履行にかかる信用リスクはほとんどないものと判断しております。

ニ. 取引に係るリスク管理体制

取引等は経理部門で管理しており、取引の締結は決裁規程にしたがった社内決裁手続を経て行われております。

(b) 取引の時価等に関する事項

期末残高がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

当社グループは、デリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。



(退職給付関係)

前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)																																
<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。</p> <p>提出会社である株式会社アルプス物流は、昭和53年12月より従来の退職金制度の一部(60%相当額)を適格退職年金制度へ移行しました。その後、順次移行割合を増加し、平成6年3月よりその割合を80%相当額と致しました。</p> <p>また、平成13年度に退職金制度全般の見直しを行い、平成14年4月1日よりポイント制退職金制度へ改めると同時に移行割合も90%相当額と致しました。</p> <p>なお、国内連結子会社は退職一時金制度のみ設けております。</p>	<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p style="text-align: center;">同左</p>																																
<p>2 退職給付債務に関する事項(平成20年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">イ 退職給付債務</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2,291百万円</td> </tr> <tr> <td>ロ 年金資産</td> <td style="text-align: right;">967 "</td> </tr> <tr> <td>ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)</td> <td style="text-align: right;">1,323 "</td> </tr> <tr> <td>ニ 未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">284 "</td> </tr> <tr> <td>ホ 未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">47 "</td> </tr> <tr> <td>ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)</td> <td style="text-align: right;">1,086 "</td> </tr> <tr> <td>ト 前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">- "</td> </tr> <tr> <td>チ 退職給付引当金(ヘ-ト)</td> <td style="text-align: right;">1,086 "</td> </tr> </table>	イ 退職給付債務	2,291百万円	ロ 年金資産	967 "	ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	1,323 "	ニ 未認識数理計算上の差異	284 "	ホ 未認識過去勤務債務	47 "	ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	1,086 "	ト 前払年金費用	- "	チ 退職給付引当金(ヘ-ト)	1,086 "	<p>2 退職給付債務に関する事項(平成21年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">イ 退職給付債務</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2,546百万円</td> </tr> <tr> <td>ロ 年金資産</td> <td style="text-align: right;">818 "</td> </tr> <tr> <td>ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)</td> <td style="text-align: right;">1,728 "</td> </tr> <tr> <td>ニ 未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">555 "</td> </tr> <tr> <td>ホ 未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">40 "</td> </tr> <tr> <td>ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)</td> <td style="text-align: right;">1,212 "</td> </tr> <tr> <td>ト 前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">- "</td> </tr> <tr> <td>チ 退職給付引当金(ヘ-ト)</td> <td style="text-align: right;">1,212 "</td> </tr> </table>	イ 退職給付債務	2,546百万円	ロ 年金資産	818 "	ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	1,728 "	ニ 未認識数理計算上の差異	555 "	ホ 未認識過去勤務債務	40 "	ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	1,212 "	ト 前払年金費用	- "	チ 退職給付引当金(ヘ-ト)	1,212 "
イ 退職給付債務	2,291百万円																																
ロ 年金資産	967 "																																
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	1,323 "																																
ニ 未認識数理計算上の差異	284 "																																
ホ 未認識過去勤務債務	47 "																																
ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	1,086 "																																
ト 前払年金費用	- "																																
チ 退職給付引当金(ヘ-ト)	1,086 "																																
イ 退職給付債務	2,546百万円																																
ロ 年金資産	818 "																																
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	1,728 "																																
ニ 未認識数理計算上の差異	555 "																																
ホ 未認識過去勤務債務	40 "																																
ヘ 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	1,212 "																																
ト 前払年金費用	- "																																
チ 退職給付引当金(ヘ-ト)	1,212 "																																
<p>3 退職給付費用に関する事項 (自平成19年4月1日至平成20年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">イ 勤務費用</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">257百万円</td> </tr> <tr> <td>ロ 利息費用</td> <td style="text-align: right;">36 "</td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">21 "</td> </tr> <tr> <td>ニ 過去勤務債務の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">7 "</td> </tr> <tr> <td>ホ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">16 "</td> </tr> <tr> <td>ヘ その他</td> <td style="text-align: right;">11 "</td> </tr> <tr> <td>ト 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)</td> <td style="text-align: right;">293 "</td> </tr> </table>	イ 勤務費用	257百万円	ロ 利息費用	36 "	ハ 期待運用収益	21 "	ニ 過去勤務債務の費用処理額	7 "	ホ 数理計算上の差異の費用処理額	16 "	ヘ その他	11 "	ト 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	293 "	<p>3 退職給付費用に関する事項 (自平成20年4月1日至平成21年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">イ 勤務費用</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">281百万円</td> </tr> <tr> <td>ロ 利息費用</td> <td style="text-align: right;">38 "</td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">9 "</td> </tr> <tr> <td>ニ 過去勤務債務の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">7 "</td> </tr> <tr> <td>ホ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">39 "</td> </tr> <tr> <td>ヘ その他</td> <td style="text-align: right;">5 "</td> </tr> <tr> <td>ト 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)</td> <td style="text-align: right;">347 "</td> </tr> </table>	イ 勤務費用	281百万円	ロ 利息費用	38 "	ハ 期待運用収益	9 "	ニ 過去勤務債務の費用処理額	7 "	ホ 数理計算上の差異の費用処理額	39 "	ヘ その他	5 "	ト 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	347 "				
イ 勤務費用	257百万円																																
ロ 利息費用	36 "																																
ハ 期待運用収益	21 "																																
ニ 過去勤務債務の費用処理額	7 "																																
ホ 数理計算上の差異の費用処理額	16 "																																
ヘ その他	11 "																																
ト 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	293 "																																
イ 勤務費用	281百万円																																
ロ 利息費用	38 "																																
ハ 期待運用収益	9 "																																
ニ 過去勤務債務の費用処理額	7 "																																
ホ 数理計算上の差異の費用処理額	39 "																																
ヘ その他	5 "																																
ト 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	347 "																																

前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>イ 退職給付見込額の期間配分方法                      期間定額基準</p> <p>ロ 割引率    1.0%～2.0%</p> <p>ハ 期待運用収益率    2.0%</p> <p>ニ 過去勤務債務の処理年数 13年(ただし、国内連結子会社は4年) (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理しております。)</p> <p>ホ 数理計算上の差異の処理年数 13年(ただし、国内連結子会社は4年) (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法。ただし、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)</p>	<p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <p>イ 退職給付見込額の期間配分方法                      期間定額基準</p> <p>ロ 割引率    1.0%～2.0%</p> <p>ハ 期待運用収益率    1.0%</p> <p>ニ 過去勤務債務の処理年数 13年(ただし、国内連結子会社は4年) (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理しております。)</p> <p>ホ 数理計算上の差異の処理年数 13年(ただし、国内連結子会社は4年) (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法。ただし、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)</p>

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)																																																						
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">415百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税等</td><td style="text-align: right;">96 "</td></tr> <tr><td>未払賞与社会保険料</td><td style="text-align: right;">55 "</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">438 "</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">117 "</td></tr> <tr><td>借地権償却</td><td style="text-align: right;">31 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">99 "</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,254 "</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>子会社の留保利益金</td><td style="text-align: right;">33百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">23 "</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">56 "</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">1,197 "</td></tr> </table>	賞与引当金	415百万円	未払事業税等	96 "	未払賞与社会保険料	55 "	退職給付引当金	438 "	役員退職慰労引当金	117 "	借地権償却	31 "	その他	99 "	繰延税金資産合計	1,254 "	子会社の留保利益金	33百万円	その他	23 "	繰延税金負債合計	56 "	繰延税金資産の純額	1,197 "	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">420百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税等</td><td style="text-align: right;">34 "</td></tr> <tr><td>未払賞与社会保険料</td><td style="text-align: right;">58 "</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">489 "</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">111 "</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">41 "</td></tr> <tr><td>借地権償却</td><td style="text-align: right;">36 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">105 "</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,297 "</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">132 "</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,165 "</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>子会社の留保利益金</td><td style="text-align: right;">77百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">11 "</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">89 "</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">1,075 "</td></tr> </table>	賞与引当金	420百万円	未払事業税等	34 "	未払賞与社会保険料	58 "	退職給付引当金	489 "	役員退職慰労引当金	111 "	その他有価証券評価差額金	41 "	借地権償却	36 "	その他	105 "	繰延税金資産小計	1,297 "	評価性引当額	132 "	繰延税金資産合計	1,165 "	子会社の留保利益金	77百万円	その他	11 "	繰延税金負債合計	89 "	繰延税金資産の純額	1,075 "
賞与引当金	415百万円																																																						
未払事業税等	96 "																																																						
未払賞与社会保険料	55 "																																																						
退職給付引当金	438 "																																																						
役員退職慰労引当金	117 "																																																						
借地権償却	31 "																																																						
その他	99 "																																																						
繰延税金資産合計	1,254 "																																																						
子会社の留保利益金	33百万円																																																						
その他	23 "																																																						
繰延税金負債合計	56 "																																																						
繰延税金資産の純額	1,197 "																																																						
賞与引当金	420百万円																																																						
未払事業税等	34 "																																																						
未払賞与社会保険料	58 "																																																						
退職給付引当金	489 "																																																						
役員退職慰労引当金	111 "																																																						
その他有価証券評価差額金	41 "																																																						
借地権償却	36 "																																																						
その他	105 "																																																						
繰延税金資産小計	1,297 "																																																						
評価性引当額	132 "																																																						
繰延税金資産合計	1,165 "																																																						
子会社の留保利益金	77百万円																																																						
その他	11 "																																																						
繰延税金負債合計	89 "																																																						
繰延税金資産の純額	1,075 "																																																						
<p>(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれている。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">537百万円</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">674 "</td></tr> <tr><td>流動負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">12 "</td></tr> <tr><td>固定負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">1 "</td></tr> </table>	流動資産 - 繰延税金資産	537百万円	固定資産 - 繰延税金資産	674 "	流動負債 - 繰延税金負債	12 "	固定負債 - 繰延税金負債	1 "	<p>(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれている。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">486百万円</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">592 "</td></tr> <tr><td>流動負債 - 繰延税金負債</td><td style="text-align: right;">3 "</td></tr> </table>	流動資産 - 繰延税金資産	486百万円	固定資産 - 繰延税金資産	592 "	流動負債 - 繰延税金負債	3 "																																								
流動資産 - 繰延税金資産	537百万円																																																						
固定資産 - 繰延税金資産	674 "																																																						
流動負債 - 繰延税金負債	12 "																																																						
固定負債 - 繰延税金負債	1 "																																																						
流動資産 - 繰延税金資産	486百万円																																																						
固定資産 - 繰延税金資産	592 "																																																						
流動負債 - 繰延税金負債	3 "																																																						
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.4%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.1%</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">1.0%</td></tr> <tr><td>外国税額控除</td><td style="text-align: right;">1.8%</td></tr> <tr><td>在外連結子会社との税率差異</td><td style="text-align: right;">4.6%</td></tr> <tr><td>在外連結子会社からの受取配当金</td><td style="text-align: right;">1.9%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.0%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">38.0%</td></tr> </table>	法定実効税率	40.4%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1%	住民税均等割	1.0%	外国税額控除	1.8%	在外連結子会社との税率差異	4.6%	在外連結子会社からの受取配当金	1.9%	その他	0.0%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.0%	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.4%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.5%</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">1.8%</td></tr> <tr><td>外国税額控除</td><td style="text-align: right;">2.1%</td></tr> <tr><td>在外連結子会社との税率差異</td><td style="text-align: right;">3.6%</td></tr> <tr><td>在外連結子会社からの受取配当金</td><td style="text-align: right;">0.9%</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">4.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.8%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">43.7%</td></tr> </table>	法定実効税率	40.4%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5%	住民税均等割	1.8%	外国税額控除	2.1%	在外連結子会社との税率差異	3.6%	在外連結子会社からの受取配当金	0.9%	評価性引当額	4.0%	その他	0.8%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.7%																
法定実効税率	40.4%																																																						
(調整)																																																							
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1%																																																						
住民税均等割	1.0%																																																						
外国税額控除	1.8%																																																						
在外連結子会社との税率差異	4.6%																																																						
在外連結子会社からの受取配当金	1.9%																																																						
その他	0.0%																																																						
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.0%																																																						
法定実効税率	40.4%																																																						
(調整)																																																							
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5%																																																						
住民税均等割	1.8%																																																						
外国税額控除	2.1%																																																						
在外連結子会社との税率差異	3.6%																																																						
在外連結子会社からの受取配当金	0.9%																																																						
評価性引当額	4.0%																																																						
その他	0.8%																																																						
税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.7%																																																						

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

	国内物流 事業 (百万円)	国際物流 事業 (百万円)	商品販売 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	39,770	14,404	9,263	63,437	-	63,437
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	39,770	14,404	9,263	63,437	-	63,437
営業費用	36,454	12,498	8,966	57,920	-	57,920
営業利益	3,315	1,905	296	5,516	-	5,516
資産、減価償却費及び資本的 支出						
(1) 資産	29,592	11,250	3,525	44,368	5,436	49,804
(2) 減価償却費	1,305	388	19	1,714	52	1,767
(3) 資本的支出	1,868	184	9	2,062	127	2,189

当連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

	電子部品 物流事業 (百万円)	消費物流 事業 (百万円)	商品販売 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	31,231	21,690	7,854	60,776	-	60,776
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	31,231	21,690	7,854	60,776	-	60,776
営業費用	28,931	20,831	7,692	57,455	-	57,455
営業利益	2,300	858	162	3,320	-	3,320
資産、減価償却費及び資本的 支出						
(1) 資産	27,321	12,478	2,219	42,019	4,460	46,479
(2) 減価償却費	882	807	20	1,710	69	1,780
(3) 資本的支出	1,475	745	8	2,229	129	2,359

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分の主な内容

- (1) 電子部品物流事業.....国内外に於ける電子部品貨物の運送、保管、フォワーディング等の事業
- (2) 消費物流事業.....日本国内に於ける消費者向け貨物の運送、保管、流通加工等の事業
- (3) 商品販売事業.....包装資材、成形材料及びデバイスの仕入及び販売事業

3 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は前連結会計年度5,436百万円、当連結会計年度4,460百万円であり、その主なものは当社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び本社管理部門に係る資産等であります。

4 減価償却費及び資本的支出には、無形固定資産及び長期前払費用とそれらの償却費が含まれております。

5 会計方針の変更

(前連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(2)に記載のとおり、当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社の平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ当連結会計年度の営業費用は、国内物流事業が73百万円、国際物流事業が4百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

(当連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(1)に記載のとおり、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日公表分)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当連結会計年度の営業利益が「商品販売事業」で17百万円減少しております。

6 追加情報

(前連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(2)に記載のとおり、当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社の平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ当連結会計年度の営業費用は、国内物流事業が27百万円、国際物流事業が2百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

7 事業区分の方法の変更

従来、事業の種類・性質の類似性等の観点から「国内物流事業」、「国際物流事業」、「商品販売事業」の3区分としておりましたが、連結子会社の消費物流事業の事業規模が拡大したことや、電子部品物流事業のグローバル化の拡大により国内外で区分する必要性が低くなったことなどの理由により、当社グループの事業の実態をより適切に反映するために事業区分の方法の見直しを行いました。

これにより、当連結会計年度より、従来、「国内物流事業」に含めておりました消費物流事業を独立して「消費物流事業」とし、また、従来、「国内物流事業」と「国際物流事業」に区分しておりました電子部品物流業務を「電子部品物流事業」と1つの区分に変更いたしました。

なお、前連結会計年度のセグメント情報を、当連結会計年度において用いた事業区分の方法により区分すると次のようになります。

	電子部品 物流事業 (百万円)	消費物流 事業 (百万円)	商品販売 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	33,806	20,367	9,263	63,437	-	63,437
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	33,806	20,367	9,263	63,437	-	63,437
営業費用	29,391	19,562	8,966	57,920	-	57,920
営業利益	4,415	805	296	5,516	-	5,516
資産、減価償却費及び資本的 支出						
(1) 資産	28,941	11,901	3,525	44,368	5,436	49,804
(2) 減価償却費	908	785	19	1,714	52	1,767
(3) 資本的支出	404	1,648	9	2,062	127	2,189

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他の 地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	52,129	10,770	537	63,437	-	63,437
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	44	71	5	121	(121)	-
計	52,173	10,842	543	63,558	(121)	63,437
営業費用	48,037	9,513	512	58,063	(142)	57,920
営業利益	4,135	1,329	30	5,495	21	5,516
資産	35,653	8,750	271	44,675	5,128	49,804

当連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他の 地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	49,734	10,525	516	60,776	-	60,776
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	177	63	3	244	(244)	-
計	49,912	10,588	519	61,021	(244)	60,776
営業費用	47,598	9,635	495	57,730	(274)	57,455
営業利益	2,313	953	24	3,291	29	3,320
資産	34,719	7,429	239	42,388	4,091	46,479

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア.....中国、シンガポール、マレーシア、タイ

その他の地域.....アメリカ、メキシコ

3 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は前連結会計年度5,128百万円、当連結会計年度4,091百万円であり、その主なものは当社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び本社管理部門に係る資産等であります。

4 会計方針の変更

（前連結会計年度）

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(2) に記載のとおり、当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社の平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ当連結会計年度における日本での営業費用は78百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

（当連結会計年度）

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(1) に記載のとおり、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、当連結会計年度の営業利益が「日本」で8百万円、「アジア」で9百万円それぞれ減少しております。

5 追加情報

（前連結会計年度）

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4.(2) に記載のとおり、当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社の平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ当連結会計年度における日本での営業費用は30百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

【海外売上高】

前連結会計年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）

	アジア	その他の地域	計
海外売上高（百万円）	9,690	874	10,565
連結売上高（百万円）	-	-	63,437
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	15.3	1.4	16.7

当連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

	アジア	その他の地域	計
海外売上高（百万円）	9,542	1,400	10,942
連結売上高（百万円）	-	-	60,776
連結売上高に占める海外売上高の割合（％）	15.7	2.3	18.0

（注）1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア.....中国、シンガポール、マレーシア、タイ

その他の地域.....アメリカ、メキシコ

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）

(1) 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円) (注)1,2	科目	期末残高 (百万円) (注)2
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	アルプス電気株式会社	東京都大田区	23,623	電子機器及び部品製造・販売	被所有 直接46.7 間接 2.2  (注)3	兼任 3名	製品・部品の運送・保管業務等の受託及び倉庫等の賃借	運送・保管業務等の受託及び成形材料の販売	7,621	受取手形及び営業未収金	1,863
								輸出入運賃立替等			

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- (注) 1 取引条件については、市場動向等を勘案して価格交渉の上、一般取引と同様に決定しております。
- 2 上記、取引金額には消費税等を含まず、期末残高には消費税等を含んで表示しております。ただし、輸出入運賃立替等の取引金額には消費税等を含んで表示しております。
- 3 「議決権等の被所有割合」の間接は、親会社の他の子会社（アルパイン株式会社）が所有しているものであります。

(2) 役員及び個人主要株主等

該当事項はありません。

(3) 子会社等

該当事項はありません。

(4) 兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円) (注)1,2	科目	期末残高 (百万円) (注)2
						役員の兼任等	事業上の関係				
主要株主 (会社等) が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社等の子会社を含む)	アルプスファイナンスサービス株式会社	東京都大田区	1,000	金融・リース事業・保険代理業	なし	なし	ファクタリング取引・リース契約及び保険代理契約	営業未払金のファクタリング (注)3	3,145	営業未払金	975
								流動負債「その他」		23	
								資金借入 (注)4	-	短期借入金	1,500
								利息の支払 (注)4	25	未払費用	-

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- (注) 1 取引条件については、市場動向等を勘案して価格交渉の上、一般取引と同様に決定しております。
- 2 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。
- 3 当社の営業債務に関して、当社、取引先、アルプスファイナンスサービス株式会社の三者間で基本契約を締結し、ファクタリング方式による決済を行っているものであります。
- 4 資金の借入については、借入利率は市場金利をもとに合理的に決定し、返済条件は期間1年としております。なお、担保は提供していません。



当連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

（追加情報）

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号 平成18年10月17日）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日）を適用しております。

なお、これによる開示対象の変更はありません。

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）（注）1,2	科目	期末残高（百万円）（注）2
親会社	アルプス電気株式会社	東京都大田区	23,623	電子機器及び部品製造・販売	被所有 直接46.7 間接 2.2  (注)3	製品・部品の運送・保管業務等の受託及び倉庫等の賃借 役員の兼任	運送・保管業務等の受託及び成形材料の販売	6,234	受取手形及び営業未収金	1,013
							輸出入運賃立替等	823	流動資産「その他」	63

（取引条件及び取引条件の決定方針等）

- (注) 1 取引条件については、市場動向等を勘案して価格交渉の上、一般取引と同様に決定しております。
- 2 上記、取引金額には消費税等を含まず、期末残高には消費税等を含んで表示しております。ただし、輸出入運賃立替等の取引金額には消費税等を含んで表示しております。
- 3 「議決権等の被所有割合」の間接は、親会社の他の子会社(アルパイン株式会社)が所有しているものであります。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等  
該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）（注）1,2	科目	期末残高（百万円）（注）2
同一の親会社をもつ会社	アルプスファイナンスサービス株式会社	東京都大田区	1,000	金融・リース事業・保険代理業	なし	ファクタリング取引・リース契約及び保険代理契約	営業未払金のファクタリング（注）3	3,105	営業未払金	844
							資金借入（注）4	-	流動負債「その他」	16
							利息の支払（注）4	11	短期借入金	750
								未払費用	-	

（取引条件及び取引条件の決定方針等）

- (注) 1 取引条件については、市場動向等を勘案して価格交渉の上、一般取引と同様に決定しております。
- 2 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。
- 3 当社の営業債務に関して、当社、取引先、アルプスファイナンスサービス株式会社の三者間で基本契約を締結し、ファクタリング方式による決済を行っているものであります。
- 4 資金の借入については、借入利率は市場金利をもとに合理的に決定し、返済条件は期間1年としております。なお、担保は提供しておりません。

(工) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等  
該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引  
該当事項はありません。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

アルプス電気株式会社(東京証券取引所に上場)

( 1株当たり情報 )

前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)		当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,562円49銭	1株当たり純資産額	1,551円21銭
1株当たり当期純利益金額	168円45銭	1株当たり当期純利益金額	82円34銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
当期純利益(百万円)	2,980	1,457
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	2,980	1,457
普通株式の期中平均株式数(株)	17,695,622	17,695,615

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,709	1,950	1.53	-
1年以内に返済予定の長期借入金	780	522	1.91	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	96	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	4,689	4,566	1.87	平成22年4月 から 平成31年8月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	-	171	-	平成22年4月 から 平成27年12月
合計	8,179	7,306	-	-

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	1,073	1,784	479	446
リース債務	96	56	10	4

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成20年4月1日 至平成20年6月30日	第2四半期 自平成20年7月1日 至平成20年9月30日	第3四半期 自平成20年10月1日 至平成20年12月31日	第4四半期 自平成21年1月1日 至平成21年3月31日
売上高(百万円)	15,943	16,059	16,124	12,649
税金等調整前四半期純利益 金額(百万円)	1,128	881	981	312
四半期純利益又は四半期純 損失( )金額(百万円)	651	434	455	85
1株当たり四半期純利益又 は1株当たり四半期純損失 ( )金額(円)	36.84	24.56	25.75	4.81

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,892	3,174
受取手形	372	175
営業未収金	2 4,784	2 3,197
商品	165	159
貯蔵品	14	19
前払費用	72	66
繰延税金資産	340	253
未収金	296	182
未収還付法人税等	-	144
未収消費税等	-	26
その他	8	16
貸倒引当金	1	5
流動資産合計	9,945	7,412
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 12,452	1 12,692
減価償却累計額	6,746	7,122
建物(純額)	5,706	5,570
構築物	639	644
減価償却累計額	478	498
構築物(純額)	161	146
機械及び装置	1,527	1,576
減価償却累計額	1,302	1,350
機械及び装置(純額)	224	225
車両運搬具	519	546
減価償却累計額	397	445
車両運搬具(純額)	121	100
工具、器具及び備品	1,415	1,499
減価償却累計額	1,079	1,198
工具、器具及び備品(純額)	335	301
土地	1 11,086	1 11,303
建設仮勘定	10	92
有形固定資産合計	17,647	17,739
無形固定資産		
借地権	128	99
ソフトウェア	156	466
土地使用権	227	-
その他	29	29
無形固定資産合計	542	595

	前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	387	269
関係会社株式	1,109	1,134
関係会社出資金	1,023	1,005
繰延税金資産	308	300
差入保証金	567	579
その他	53	48
貸倒引当金	5	6
投資その他の資産合計	3,445	3,330
固定資産合計	21,635	21,665
資産合計	31,580	29,077
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
営業未払金	3,384	2,245
短期借入金	2,550	1,850
1年内返済予定の長期借入金	121	71
未払金	355	555
未払費用	465	397
未払消費税等	120	-
未払法人税等	732	-
預り金	63	56
賞与引当金	593	535
その他	42	-
流動負債合計	8,428	5,712
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,205	1,134
退職給付引当金	407	434
役員退職慰労引当金	109	83
その他	9	9
固定負債合計	1,730	1,660
負債合計	10,159	7,372

	前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,349	2,349
資本剰余金		
資本準備金	2,029	2,029
資本剰余金合計	2,029	2,029
利益剰余金		
利益準備金	307	307
その他利益剰余金		
別途積立金	14,350	14,350
繰越利益剰余金	2,423	2,780
利益剰余金合計	17,081	17,437
自己株式	50	50
株主資本合計	21,409	21,766
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11	60
評価・換算差額等合計	11	60
純資産合計	21,421	21,705
負債純資産合計	31,580	29,077

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)	当事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)
<b>売上高</b>		
<b>営業収益</b>		
運送事業収入	11,662	10,046
保管事業収入	10,027	9,659
輸出入貨物取扱事業収入	3,527	2,936
<b>営業収益合計</b>	25,217	22,642
仕入商品売上高	6,589	5,579
<b>売上高合計</b>	1 31,806	1 28,221
<b>売上原価</b>		
<b>営業原価</b>		
運送事業費	9,762	9,059
保管事業費	7,567	7,459
輸出入貨物取扱事業費	2,634	2,355
<b>営業原価合計</b>	19,963	18,873
仕入商品売上原価	6,043	5,147
<b>売上原価合計</b>	26,007	2 24,021
<b>売上総利益</b>		
営業収益売上総利益	5,253	3,768
仕入商品売上総利益	545	431
<b>売上総利益合計</b>	5,798	4,200
<b>販売費及び一般管理費</b>	3 2,471	3 2,746
<b>営業利益</b>	3,326	1,454
<b>営業外収益</b>		
受取利息	8	5
受取配当金	1 373	1 217
保険返戻金	-	35
雑収入	70	67
<b>営業外収益合計</b>	452	327
<b>営業外費用</b>		
支払利息	70	54
為替差損	43	71
雑支出	7	7
<b>営業外費用合計</b>	121	133
<b>経常利益</b>	3,657	1,648
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	4 0	4 56
<b>特別利益合計</b>	0	56
<b>特別損失</b>		
固定資産除売却損	5 6	5 21
<b>特別損失合計</b>	6	21
<b>税引前当期純利益</b>	3,652	1,683
法人税、住民税及び事業税	1,446	563
法人税等調整額	15	144
<b>法人税等合計</b>	1,431	707
<b>当期純利益</b>	2,220	975



【営業原価明細書】

営業原価合計

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)		当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
材料費			243	1.2	215	1.1
人件費			5,000	25.0	5,014	26.6
(うち賞与引当金繰入額)		(424)			(375)	
(うち退職給付費用)		(108)		(123)		
経費			14,719	73.7	13,643	72.3
(うち外注費)		(11,110)		(9,999)		
(うち減価償却費)		(685)		(677)		
(うち賃借料)		(1,008)		(1,109)		
合計			19,963	100.0	18,873	100.0

運送事業費

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)		当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
材料費			35	0.4	27	0.3
人件費			1,099	11.3	1,081	11.9
(うち賞与引当金繰入額)		(100)		(90)		
(うち退職給付費用)		(26)		(29)		
経費			8,627	88.4	7,951	87.8
(うち外注費)		(7,795)		(7,133)		
(うち減価償却費)		(125)		(133)		
(うち賃借料)		(103)		(102)		
合計			9,762	100.0	9,059	100.0

## 保管事業費

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)		当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
材料費			208	2.7	188	2.5
人件費			3,484	46.0	3,548	47.6
(うち賞与引当金繰入額)		(281)		(252)		
(うち退職給付費用)		(67)		(80)		
経費			3,874	51.2	3,722	49.9
(うち外注費)		(1,341)		(1,106)		
(うち減価償却費)		(514)		(502)		
(うち賃借料)		(895)		(997)		
合計			7,567	100.0	7,459	100.0

## 輸出入貨物取扱事業費

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)		当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
材料費			-	-	0	0.0
人件費			416	15.8	384	16.3
(うち賞与引当金繰入額)		(42)		(32)		
(うち退職給付費用)		(14)		(14)		
経費			2,217	84.2	1,970	83.7
(うち外注費)		(1,973)		(1,759)		
(うち減価償却費)		(45)		(41)		
(うち賃借料)		(9)		(8)		
合計			2,634	100.0	2,355	100.0

## 【仕入商品売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)		当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
仕入商品期首たな卸高			127		165
当期商品仕入高			6,082		5,141
計			6,209		5,307
仕入商品期末たな卸高			165		159
仕入商品売上原価			6,043		5,147

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)	当事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	2,349	2,349
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,349	2,349
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	2,029	2,029
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,029	2,029
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	2,029	2,029
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,029	2,029
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	307	307
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	307	307
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	12,550	14,350
当期変動額		
別途積立金の積立	1,800	-
当期変動額合計	1,800	-
当期末残高	14,350	14,350
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	2,445	2,423
当期変動額		
別途積立金の積立	1,800	-
剰余金の配当	442	619
当期純利益	2,220	975
当期変動額合計	21	356
当期末残高	2,423	2,780
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	15,302	17,081
当期変動額		
剰余金の配当	442	619
当期純利益	2,220	975
当期変動額合計	1,778	356
当期末残高	17,081	17,437

	前事業年度 (自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日)	当事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)
<b>自己株式</b>		
前期末残高	50	50
当期変動額		
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	50	50
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	19,631	21,409
当期変動額		
剰余金の配当	442	619
当期純利益	2,220	975
自己株式の取得	-	0
当期変動額合計	1,778	356
当期末残高	21,409	21,766
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	206	11
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	195	72
当期変動額合計	195	72
当期末残高	11	60
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	206	11
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	195	72
当期変動額合計	195	72
当期末残高	11	60
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	19,838	21,421
当期変動額		
剰余金の配当	442	619
当期純利益	2,220	975
自己株式の取得	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	195	72
当期変動額合計	1,583	284
当期末残高	21,421	21,705

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)										
1 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。</p> <p>時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>(1) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p>										
2 たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>商品及び貯蔵品 移動平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>通常の販売目的で保有するたな卸資産 商品及び貯蔵品 移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。 (会計方針の変更) 当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日公表分)を適用しております。 これにより、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ8百万円減少しております。</p>										
3 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法によっております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)については定額法によっております。 なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>建物</td> <td>2～50年</td> </tr> <tr> <td>構築物</td> <td>3～50年</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>2～17年</td> </tr> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>2～7年</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>2～20年</td> </tr> </table>	建物	2～50年	構築物	3～50年	機械及び装置	2～17年	車両運搬具	2～7年	工具、器具及び備品	2～20年	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>(追加情報) 当社は、法人税法の改正を契機として耐用年数の見直しを行い、機械装置については平成20年4月1日より改正後の耐用年数に基づく減価償却を行っております。これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益への影響は軽微であります。</p>
建物	2～50年											
構築物	3～50年											
機械及び装置	2～17年											
車両運搬具	2～7年											
工具、器具及び備品	2～20年											

項目	前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
	<p>(会計方針の変更)</p> <p>法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これにより、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ19百万円減少しております。</p> <p>(追加情報)</p> <p>法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した事業年度の翌事業年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>これにより、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ19百万円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法によっております。 ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p>	<p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>

項目	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
4 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与金の支払に備えるため、支給見込額の当期負担額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付の支払に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による按分額を費用処理しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間（13年）による按分額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p>
5 リース取引の処理方法	<p>リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	
6 その他財務諸表作成のための重要な事項	<p>消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しております。</p>	<p>消費税等の会計処理 同左</p>

【財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
	<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>これによる当事業年度の損益に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
	<p>(損益計算書関係)</p> <p>前事業年度まで営業外収益の「雑収入」に含めて表示しておりました「保険返戻金」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため区分掲記しました。</p> <p>なお、前事業年度における「保険返戻金」の金額は6百万円であります。</p>



【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)																																								
<p>1 担保に供している資産 次の資産を借入金の担保に供しています。</p> <p>不動産抵当</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">253百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">1,607 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,861 "</td> </tr> </table> <p>上記に対する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">121百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">305 "</td> </tr> </table> <p>2 関係会社項目 区分掲記されたもの以外で、各科目に含まれている関係会社に対する主なものは次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">営業未収金</td> <td style="text-align: right;">1,945百万円</td> </tr> </table> <p>3 偶発債務 倉庫賃貸借契約に対する保証債務</p> <p>関係会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (2,308千USドル)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">231百万円</td> </tr> <tr> <td>アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. (756千USドル)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">75百万円</td> </tr> </table> <p>上記のほか、アルプス・ロジスティクス(USA)INC.の倉庫賃借に関わる共有部分維持費用(現行月額1百万円)の支払債務についても保証を行っております。</p> <p>金融機関からの借入金に対する保証債務</p> <p>関係会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (200千USドル)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">20百万円</td> </tr> </table> <p>金融機関からの借入金に対する保証予約</p> <p>関係会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">大連泰達アルプス物流有限公司 (1,300千USドル)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">130百万円</td> </tr> </table> <p>上記のうち、外貨建保証債務及び保証予約は、決算日の為替相場により円換算しております。</p>	建物	253百万円	土地	1,607 "	計	1,861 "	1年内返済予定の長期借入金	121百万円	長期借入金	305 "	営業未収金	1,945百万円	アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (2,308千USドル)	231百万円	アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. (756千USドル)	75百万円	アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (200千USドル)	20百万円	大連泰達アルプス物流有限公司 (1,300千USドル)	130百万円	<p>1 担保に供している資産 次の資産を借入金の担保に供しています。</p> <p>不動産抵当</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">229百万円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">1,607 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,836 "</td> </tr> </table> <p>上記に対する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">71百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">234 "</td> </tr> </table> <p>2 関係会社項目 区分掲記されたもの以外で、各科目に含まれている関係会社に対する主なものは次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">営業未収金</td> <td style="text-align: right;">1,063百万円</td> </tr> </table> <p>3 偶発債務 倉庫賃貸借契約に対する保証債務</p> <p>関係会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (1,975千USドル)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">194百万円</td> </tr> <tr> <td>アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. (365千USドル)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">35百万円</td> </tr> </table> <p>上記のほか、アルプス・ロジスティクス(USA)INC.及びアルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V.の倉庫賃借に関わる共有部分維持費用の支払債務についても保証を行っております。</p> <p>金融機関からの借入金に対する保証債務</p> <p>関係会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (100千USドル)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">9百万円</td> </tr> </table> <p>金融機関からの借入金に対する保証予約</p> <p>関係会社</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">大連泰達アルプス物流有限公司 (1,000千USドル)</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">98百万円</td> </tr> </table> <p>上記のうち、外貨建保証債務及び保証予約は、決算日の為替相場により円換算しております。</p>	建物	229百万円	土地	1,607 "	計	1,836 "	1年内返済予定の長期借入金	71百万円	長期借入金	234 "	営業未収金	1,063百万円	アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (1,975千USドル)	194百万円	アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. (365千USドル)	35百万円	アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (100千USドル)	9百万円	大連泰達アルプス物流有限公司 (1,000千USドル)	98百万円
建物	253百万円																																								
土地	1,607 "																																								
計	1,861 "																																								
1年内返済予定の長期借入金	121百万円																																								
長期借入金	305 "																																								
営業未収金	1,945百万円																																								
アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (2,308千USドル)	231百万円																																								
アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. (756千USドル)	75百万円																																								
アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (200千USドル)	20百万円																																								
大連泰達アルプス物流有限公司 (1,300千USドル)	130百万円																																								
建物	229百万円																																								
土地	1,607 "																																								
計	1,836 "																																								
1年内返済予定の長期借入金	71百万円																																								
長期借入金	234 "																																								
営業未収金	1,063百万円																																								
アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (1,975千USドル)	194百万円																																								
アルプス・ロジスティクス・メキシコ S.A. DE C.V. (365千USドル)	35百万円																																								
アルプス・ロジスティクス(USA)INC. (100千USドル)	9百万円																																								
大連泰達アルプス物流有限公司 (1,000千USドル)	98百万円																																								

( 損益計算書関係 )

前事業年度 ( 自 平成19年 4月 1日 至 平成20年 3月31日 )				当事業年度 ( 自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日 )			
1 関係会社項目 関係会社に係る主な取引は次のとおりです。				1 関係会社項目 関係会社に係る主な取引は次のとおりです。			
売上高	7,665百万円			売上高	6,412百万円		
受取配当金	367 "			受取配当金	210 "		
2				2 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。  8百万円			
3 販売費及び一般管理費の主な費目 販売費及び一般管理費のうち販売費に属する費用のおおよその割合は40.3%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は59.7%であります。 主な費目及び金額は、次のとおりです。				3 販売費及び一般管理費の主な費目 販売費及び一般管理費のうち販売費に属する費用のおおよその割合は43.0%であり、一般管理費に属する費用のおおよその割合は57.0%であります。 主な費目及び金額は、次のとおりです。			
役員報酬	168百万円			役員報酬	145百万円		
賃金給与及び諸手当	903 "			賃金給与及び諸手当	1,050 "		
法定福利費	170 "			法定福利費	191 "		
賞与引当金繰入額	168 "			賞与引当金繰入額	159 "		
退職給付費用	52 "			退職給付費用	66 "		
役員退職慰労引当金繰入額	28 "			役員退職慰労引当金繰入額	18 "		
支払手数料	161 "			支払手数料	224 "		
厚生費	127 "			厚生費	165 "		
減価償却費	85 "			旅費交通費	142 "		
				減価償却費	99 "		
4 固定資産売却益の内訳				4 固定資産売却益の内訳			
建物	0百万円			建物	2百万円		
構築物	0 "			構築物	0 "		
車両運搬具	0 "			機械及び装置	0 "		
計	0 "			車両運搬具	0 "		
				工具、器具及び備品	0 "		
				土地使用権	52 "		
				計	56 "		
5 固定資産除売却損の内訳				5 固定資産除売却損の内訳			
	除却	売却	計		除却	売却	計
	(百万円)	(百万円)	(百万円)		(百万円)	(百万円)	(百万円)
建物	0	-	0	建物	0	0	0
構築物	0	-	0	構築物	0	-	0
機械及び装置	0	-	0	機械及び装置	0	-	0
車両運搬具	-	0	0	車両運搬具	0	0	1
工具、器具及び備品	4	0	4	工具、器具及び備品	1	-	1
ソフトウェア	0	-	0	借地権	17	-	17
計	5	0	6	計	20	0	21

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式	41	-	-	41
合計	41	-	-	41

当事業年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式	41	0	-	41
合計	41	0	-	41

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)				当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)			
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの 以外のファイナンス・リース取引				リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権 移転外ファイナンス・リース取引			
1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額 及び期末残高相当額				1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額 及び期末残高相当額			
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
車両運搬具	8	8	-	工具、器具及び備品	45	43	1
工具、器具及び備品	45	38	6	合計	45	43	1
合計	54	47	6				
<p>(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等 に占める未経過リース料期末残高の割合が低 いため、支払利子込み法により算定しておりま す。</p> <p>2 未経過リース料期末残高相当額</p> <p>1年内 4百万円</p> <p>1年超 1 "</p> <p>合計 6 "</p> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は有形固定資産 の期末残高等に占める未経過リース料残高の 割合が低いため、支払利子込み法により算定し ております。</p> <p>3 当期の支払リース料及び減価償却費相当額</p> <p>支払リース料 11百万円</p> <p>減価償却費相当額 11 "</p> <p>4 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額 法によっております。</p>				<p>(注) 同左</p> <p>2 未経過リース料期末残高相当額</p> <p>1年内 1百万円</p> <p>1年超 0 "</p> <p>合計 1 "</p> <p>(注) 同左</p> <p>3 当期の支払リース料及び減価償却費相当額</p> <p>支払リース料 4百万円</p> <p>減価償却費相当額 4 "</p> <p>4 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>同左</p>			

(有価証券関係)

前事業年度及び当事業年度のいずれにおいても子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)																																																
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">239百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税等</td><td style="text-align: right;">69 "</td></tr> <tr><td>未払賞与社会保険料</td><td style="text-align: right;">31 "</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">164 "</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">44 "</td></tr> <tr><td>借地権償却</td><td style="text-align: right;">31 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">76 "</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">656 "</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">7百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7 "</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">649 "</td></tr> </table>	賞与引当金	239百万円	未払事業税等	69 "	未払賞与社会保険料	31 "	退職給付引当金	164 "	役員退職慰労引当金	44 "	借地権償却	31 "	その他	76 "	繰延税金資産合計	656 "	その他有価証券評価差額金	7百万円	繰延税金負債合計	7 "	繰延税金資産の純額	649 "	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">216百万円</td></tr> <tr><td>未払賞与社会保険料</td><td style="text-align: right;">29 "</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">175 "</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">41 "</td></tr> <tr><td>借地権償却</td><td style="text-align: right;">36 "</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">33 "</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">79 "</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">610 "</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">52 "</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">558 "</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未収還付事業税</td><td style="text-align: right;">4百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4 "</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">554 "</td></tr> </table>	賞与引当金	216百万円	未払賞与社会保険料	29 "	退職給付引当金	175 "	その他有価証券評価差額金	41 "	借地権償却	36 "	役員退職慰労引当金	33 "	その他	79 "	繰延税金資産小計	610 "	評価性引当額	52 "	繰延税金資産合計	558 "	未収還付事業税	4百万円	繰延税金負債合計	4 "	繰延税金資産の純額	554 "
賞与引当金	239百万円																																																
未払事業税等	69 "																																																
未払賞与社会保険料	31 "																																																
退職給付引当金	164 "																																																
役員退職慰労引当金	44 "																																																
借地権償却	31 "																																																
その他	76 "																																																
繰延税金資産合計	656 "																																																
その他有価証券評価差額金	7百万円																																																
繰延税金負債合計	7 "																																																
繰延税金資産の純額	649 "																																																
賞与引当金	216百万円																																																
未払賞与社会保険料	29 "																																																
退職給付引当金	175 "																																																
その他有価証券評価差額金	41 "																																																
借地権償却	36 "																																																
役員退職慰労引当金	33 "																																																
その他	79 "																																																
繰延税金資産小計	610 "																																																
評価性引当額	52 "																																																
繰延税金資産合計	558 "																																																
未収還付事業税	4百万円																																																
繰延税金負債合計	4 "																																																
繰延税金資産の純額	554 "																																																
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別内訳</p> <p style="padding-left: 20px;">法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。</p>	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別内訳</p> <p style="text-align: center;">同左</p>																																																

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
1株当たり純資産額 1,210円53銭	1株当たり純資産額 1,226円59銭
1株当たり当期純利益金額 125円50銭	1株当たり当期純利益金額 55円15銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
当期純利益(百万円)	2,220	975
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	2,220	975
普通株式の期中平均株式数(株)	17,695,622	17,695,615

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他 有価証券	アルパイン(株)	150,000	96
		高千穂交易(株)	50,000	49
		太陽誘電(株)	61,574	45
		(株)横浜銀行	60,000	25
		(株)近鉄エクスプレス	12,039	21
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	2,800	9
		アルプス・インシュアランス(株)	140,000	8
		ニチコン(株)	8,812	6
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	8,000	3
		中央三井トラスト・ホールディングス(株)	3,000	0
		日本CMK(株)	1,100	0
		財形住宅金融(株)	2	0
		計	497,328	269

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	12,452	276	37	12,692	7,122	409	5,570
構築物	639	6	0	644	498	21	146
機械及び装置	1,527	50	1	1,576	1,350	49	225
車両運搬具	519	67	40	546	445	86	100
工具、器具及び備品	1,415	130	46	1,499	1,198	163	301
土地	11,086	216	-	11,303	-	-	11,303
建設仮勘定	10	92	10	92	-	-	92
有形固定資産計	27,651	839	136	28,354	10,615	729	17,739
無形固定資産							
借地権	206	-	17	188	89	11	99
ソフトウェア	492	355	2	846	379	45	466
土地使用権	232	-	232	-	-	1	-
その他	38	-	-	38	9	0	29
無形固定資産計	969	355	251	1,073	478	59	595

(注) ソフトウェアの当期増加額の主な要因は次のとおりです。

新運送システム開発費用 246百万円

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	7	4	-	-	12
賞与引当金	593	535	593	-	535
役員退職慰労引当金	109	18	44	-	83

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## 1) 資産の部

## 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	13
預金	
当座預金	30
普通預金	3,011
外貨預金	117
別段預金	1
計	3,160
合計	3,174

## 受取手形

## (イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)北光	56
日本ウォルブロー(株)	17
(株)柴田合成	16
明治合成(株)	14
光進化成(株)	11
その他 (注)	59
合計	175

(注) 兼松(株)他

## (ロ) 期日別内訳

期日	平成21年4月	5月	6月	7月	8月	合計
金額 (百万円)	73	48	33	18	1	175



## 営業未収金

## (イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
アルプス電気(株)	1,013
T D K (株)	281
ALPS AUTOMOTIVE, INC.	111
アルパイン(株)	104
(株)八十二銀行 (注) 1	94
その他 (注) 2	1,590
合計	3,197

(注) 1 ファクタリング取引契約を締結しております。

2 ALPS ELECTRIC (IRELAND) LIMITED他

## (ロ) 回収及び滞留状況

前期末残高 (A)(百万円)	当期売上高 (B)(百万円)	仮受消費税 (C)(百万円)	当期回収高 (D)(百万円)	当期末残高 (E)(百万円)	回収率(%) (D) $\times 100$ (A) + (B) + (C)	回転率(回) (B) + (C) [(A)+(E)] ÷ 2	滞留期間(日) 365 回転率
4,784	28,221	1,265	31,074	3,197	90.7	7.39	49.4

## 商品

品名	金額(百万円)
包装資材	2
成形材料	137
電子デバイス	19
合計	159

## 貯蔵品

品名	金額(百万円)
梱包材	13
その他	6
合計	19

2) 負債の部  
 営業未払金  
 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
アルプスファイナンスサービス(株) (注) 1	845
三井物産(株)	114
J S R トレーディング(株)	100
S A B I C ポリマーランドジャパン(株)	98
伊藤忠プラスチック(株)	66
その他 (注) 2	1,021
合計	2,245

(注) 1 ファクタリング取引契約を締結しております。

2 名阪急配(株)他

短期借入金  
 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
アルプスファイナンスサービス(株)	750
(株)三井住友銀行	600
(株)横浜銀行	300
(株)三菱東京UFJ銀行	100
(株)みずほ銀行	100
合計	1,850

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社  無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.alps-logistics.jp/jpn/ir/e_announce.html">http://www.alps-logistics.jp/jpn/ir/e_announce.html</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第44期（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）平成20年6月24日関東財務局長に提出

(2) 有価証券報告書の訂正報告書

事業年度 第44期（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）平成20年7月7日関東財務局長に提出

事業年度 第44期（自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日）平成20年9月5日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第45期第1四半期（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）平成20年8月7日関東財務局長に提出

第45期第2四半期（自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日）平成20年11月7日関東財務局長に提出

第45期第3四半期（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）平成21年2月9日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成20年6月16日

株式会社アルプス物流  
取締役会 御中

新日本監査法人

指定社員 公認会計士 高橋 英夫 印  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 井村 順子 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルプス物流の平成19年4月1日から平成20年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アルプス物流及び連結子会社の平成20年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月16日

株式会社アルプス物流  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 英夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢崎 弘直 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルプス物流の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アルプス物流及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社アルプス物流の平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社アルプス物流が平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成20年6月16日

株式会社アルプス物流  
取締役会 御中

新日本監査法人  
指定社員 公認会計士 高橋 英夫 印  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 井村 順子 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルプス物流の平成19年4月1日から平成20年3月31日までの第44期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アルプス物流の平成20年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。



独立監査人の監査報告書

平成21年6月16日

株式会社アルプス物流  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 高橋 英夫 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 矢崎 弘直 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルプス物流の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第45期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アルプス物流の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。